

# 沖塚原東 B 遺跡発掘調査報告

— 沖塚原企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2022年

富山県射水市教育委員会



# 沖塚原東 B 遺跡発掘調査報告

— 沖塚原企業団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2022年

富山県射水市教育委員会



# 例 言

- 1 本書は富山県射水市沖塚原地内に所在する沖塚原東B遺跡の発掘調査報告である。
- 2 調査は沖塚原企業団地造成に先立ち、射水市土地開発公社の依頼を受け、射水市教育委員会の監理の下で株式会社エイ・テックが実施した。
- 3 発掘区の地番・現地調査期間および面積は次のとおりである。  
沖塚原81-1番地外 令和3年3月4日～同年11月30日 発掘面積 4,500㎡ 実働日数 延べ154日間
- 4 整理作業期間は次のとおりである。  
令和3年4月6日～令和4年3月18日
- 5 調査事務局は射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課に設置した。調査関係者は次のとおりである。  
[射水市教育委員会]  
生涯学習・スポーツ課長：久々江 豊  
文化財係長：田中 明  
主査・監督員：原田 義範、主査：金三津英則  
[株式会社エイ・テック]  
主任調査員：後藤 浩之  
調査員：岡田 一広  
施工管理技師：川淵 久志  
調査補助員：高山 歩乃歌、関 杏介、米澤 芽衣
- 6 本書の編集は、監督員・調査員の協議の下、岡田が担当した。執筆は、第2章を原田、他を岡田が担当した。また、第3章第5節種子は島田亮仁氏より玉稿を賜った。
- 7 発掘調査および遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）  
【現地調査】 一宮勝男、伊藤恵美子、上野克秀、浦上 茂、大田久美子、風間勝雄、門口晴光、川島壮平、齊木和佳、清水智裕、庄谷 修、近岡義隆、中山政昭、福岡哲夫、福田恵子、松浦華織、松本真由美、真野 等、宮越日出夫、宮林孝夫、宮脇秀夫、横山 功、吉田勝昭、米林真人、鎧 徹信、和田 晃、綿谷 忠  
【整理作業】 相佐啓子、川島壮平、坂上佑梨、清水智裕、廣岡尚江、松本真由美、三島幸代、渡辺悦子
- 8 調査で得た図面・写真・遺物は射水市教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。  
沖塚原東B遺跡：OTE-B

# 凡 例

- 1 本書に掲載の遺構図の方位は座標北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。  
SA：柵址 SB：掘立柱建物址 SD：溝 SE：井戸址 SF：道路址 SK：土坑 SP：ピット・柱穴
- 3 座標は公共座標（世界測地系2011、平面直角座標系、第Ⅶ系）を使用し、南北をX軸、東西をY軸とした。
- 4 遺構平面図の縮尺は1/200、遺構断面図の縮尺は1/60、遺物実測図の縮尺は1/4を基本とし、縮尺の異なる図面についてはそれぞれの縮尺とともにスケールを表記した。



# 目 次

例言・目次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯	4
第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査の方法	5
第2節 基本層序	5
第3節 遺構	6
第4節 遺物	11
第5節 種子	13
第4章 総括	17

写真図版

報告書抄録

# 挿 図 目 次

第1図 沖塚原東B遺跡位置図〔1〕 (1/150,000)	1
第2図 沖塚原東B遺跡位置図〔2〕 (1/50,000)	2
第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/15,000)	3
第4図 調査地区位置図 (1/5,000)	4
第5図 グリッド配置図 (1/1,500)	5
第6図 基本層序模式図	5
第7図 沖塚原東B遺跡出土種実	16
第8図 沖塚原東B遺跡周辺歴史考古地図 (1/50,000)	17
第9図 沖塚原東B遺跡遺構配置図 (1/1,000)	18
第10図 図面配置図 (1/600)	21
第11図 調査地区全体図〔1〕 (1/400)	22
第12図 調査地区全体図〔2〕 (1/400)	23
第13図 遺構平面図〔1〕 (1/200)	24
第14図 遺構平面図〔2〕 (1/200)	25
第15図 遺構平面図〔3〕 (1/200)	26
第16図 遺構平面図〔4〕 (1/200)	27



第17図	遺構平面図〔5〕 (1/200)	28
第18図	遺構平面図〔6〕 (1/200)	29
第19図	遺構平面図〔7〕 (1/200)	30
第20図	遺構平面図〔8〕 (1/200)	31
第21図	S B01実測図 (1/80・1/40)	32
第22図	S B02・S A01・S D37実測図 (1/80・1/60)	33
第23図	S E01~04実測図 (1/40)	34
第24図	S E05~08実測図 (1/40)	35
第25図	S E09~11・13実測図 (1/40)	36
第26図	S E12・14・16実測図 (1/40)	37
第27図	S E15・17・18実測図 (1/40)	38
第28図	S K01・03~05・07・08実測図 (1/60)	39
第29図	S F01~03実測図 (1/200・1/60)	40
第30図	S D01・03・06・12実測図 (1/800・1/60)	41
第31図	S D21~23・29・31実測図 (1/800・1/60)	42
第32図	編物出土状況図 (1/6)	43
第33図	遺物実測図〔1〕 (1/4)	44
第34図	遺物実測図〔2〕 (1/4)	45
第35図	遺物実測図〔3〕 (1/4)	46
第36図	遺物実測図〔4〕 (1/4)	47
第37図	遺物実測図〔5〕 (1/4・1/6)	48
第38図	遺物実測図〔6〕 (1/1・1/4・1/6)	49
第39図	遺物実測図〔7〕 (1/4)	50
第40図	遺物実測図〔8〕 (1/2・1/4・1/8)	51
第41図	遺物実測図〔9〕 (1/4)	52

## 挿 表 目 次

第1表	井戸址一覧	7
第2表	土坑一覧	7
第3表	溝一覧〔1〕	8
第4表	溝一覧〔2〕	9
第5表	溝一覧〔3〕	10
第6表	木製品一覧	12
第7表	沖塚原東B遺跡出土種実遺体群 (現地採取)	14
第8表	沖塚原東B遺跡S K05出土種実遺体群 (水洗選別)	14
第9表	沖塚原東B遺跡出土種実分類群〔1〕	15
第10表	沖塚原東B遺跡出土種実分類群〔2〕	16
第11表	沖塚原東B遺跡関連年表	19



# 第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.44km<sup>2</sup>である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベッドタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万2千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万～8千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広がったとみられ、その後は縄文海進とよばれる気候変動と海面上昇により、海岸線が陸へ進行し平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することとなる。やがて寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することによってかつての海は小さく放生津潟（現；富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流が澱み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。

現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。



第1図 沖塚原東B遺跡位置図〔1〕（1/150,000）





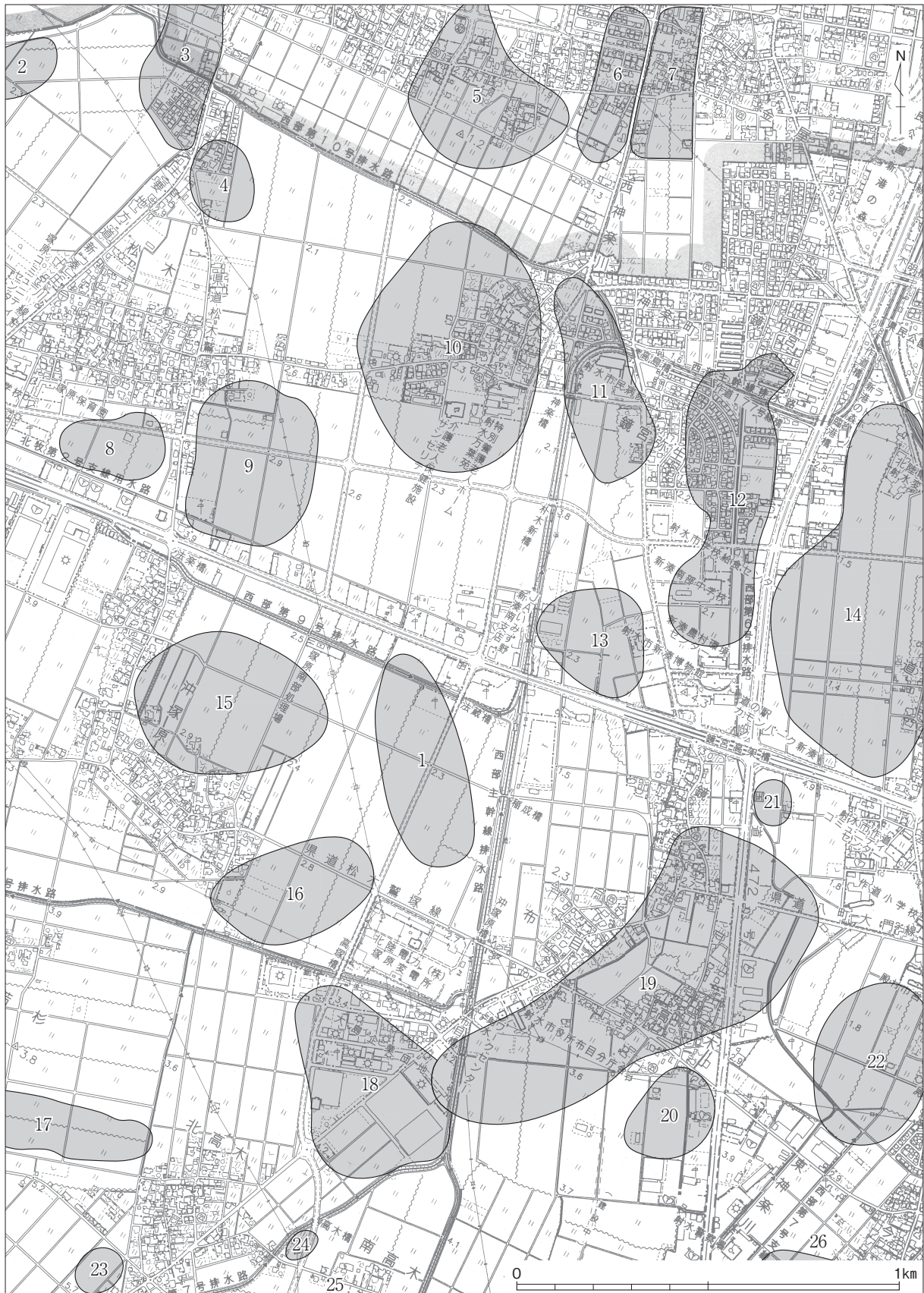
第2図 沖塚原東B遺跡位置図〔2〕 (1/50,000)

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡群、上野南遺跡、赤坂A～D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約40遺跡、製鉄遺跡約150遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能しているために集落が営まれてきたと考えられている。

沖塚原東B遺跡は、庄川右岸に形成された標高1.8m前後の沖積低地で、昭和46年に完成したほ場整備以前は当遺跡の中央部を西神楽川が北流しており、この西神楽川が形成する自然堤防上に遺跡が立地する。中世を主体とした遺跡であり、その他に縄文晩期の土器や弥生土器も採取されている。平成5年に発行された富山県埋蔵文化財包蔵地地図では沖塚原東A～C遺跡が登録されており、平成9年に実施した分布調査の結果により、従来の沖塚原東B遺跡の範囲および沖塚原東A遺跡の北端部が包括され、現在の遺跡範囲となった。

当遺跡周辺では、縄文時代晩期以降の遺跡が確認でき、弥生時代中期以降は活発に遺跡が展開する。高島A遺跡では弥生時代中期の平地式住居や方形周溝墓を検出した。北高木遺跡では奈良・平安時代の人形、斎串や人面墨書土器などの律令祭祀遺物が出土した。中世になると日本海沿岸交易が活発化し放生津は関東御免津軽船を所有するなど繁栄した。この放生津に鎌倉時代末期には守護所として放生津城が築城され、室町時代には將軍足利義材が下向するなど政治的拠点となる。





第3図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/15,000)

1. 沖塚原東B遺跡
2. 松木七口遺跡
3. 中曽根西遺跡
4. 松木遺跡
5. 中曽根遺跡
6. 中曽根館遺跡
7. 牧野金屋遺跡
8. 松木大ノ田遺跡
9. 松木中鹿遺跡
10. 朴木C遺跡
11. 朴木A遺跡
12. 高島A遺跡
13. 鏡宮北遺跡
14. 作道遺跡
15. 沖塚原遺跡
16. 沖塚原東A遺跡
17. 中野B遺跡
18. 北高木遺跡
19. 高木・荒畑遺跡
20. 南浦遺跡
21. 鏡宮遺跡
22. 今井西遺跡
23. 小島遺跡
24. 南高木A遺跡
25. 南高木B遺跡
26. 今井南遺跡



## 第2章 調査に至る経緯

射水市は平成28年6月から企業団地適地の候補地調査を実施し、新規適地に大江地区、沖塚原地区、小泉・島地区の3地区を選定した。平成30年10月、最も進出企業の引き合いがあった沖塚原地区での企業団地造成事業計画が、事業担当課である商工企業立地課から射水市教育委員会に示された。

事業計画地には周知の埋蔵文化財包蔵地である沖塚原東B遺跡が所在しており、平成30年度に近隣で行われた発掘調査によって鎌倉・室町時代の居館跡が確認されたことから（平成30年度調査地区）、埋蔵文化財の取り扱いの協議を進め、事業計画地11.62haのうち11.40haを対象に射水市教育委員会が主体となって試掘確認調査を実施することとなった。調査は令和2年10月19日から11月16日の実働16日間で実施した。

調査の結果、沖塚原東B遺跡埋蔵文化財包蔵地範囲の中央部東側で弥生・古墳時代および中世の遺構・遺物の広がり確認され、4,500㎡で保護措置が必要となった。

同年11月30日に事業担当課の商工企業立地課および造成工事を監理する都市計画課と試掘調査結果に基づく今後の対応を協議し、保護措置が必要となる全域で本発掘調査を実施することになった。

また、調査期間の確保と造成スケジュール調整を進め、令和3年10月31日までに現地調査を終了し、遺物整理から報告書刊行を令和4年3月18日までに終わることを確認した。

令和2年12月25日、射水市土地開発公社と射水市教育委員会との間で射水市沖塚原企業団地造成事業地内における埋蔵文化財の保護措置に関する協定を締結。指名競争入札を経て民間調査会社の株式会社エイ・テックに委託することに決定した。現地発掘調査は降雪時期を避け、令和3年3月4日に着手した。



第4図 調査地区位置図（1／5,000）

# 第3章 調査の方法と成果

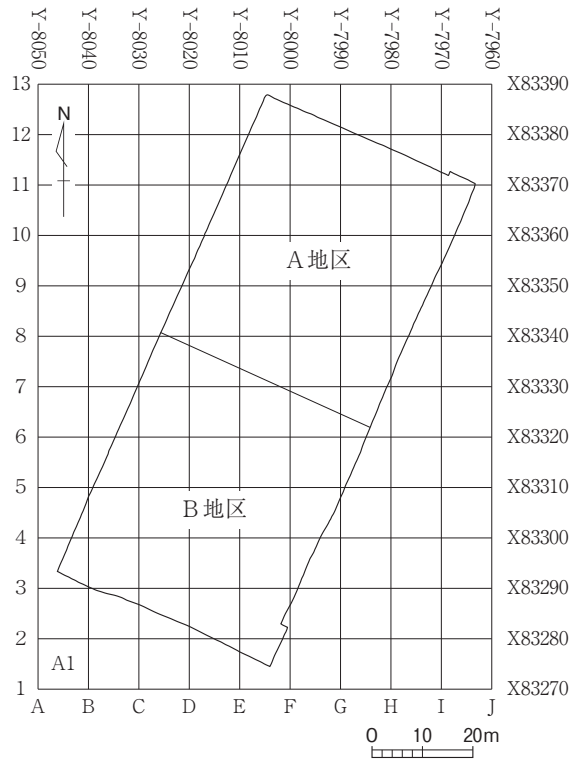
## 第1節 調査の方法

現地調査は、工程上の関係から、南北に二分割し、北半部をA地区、南半部をB地区として、令和3年3月4日にA地区から調査を開始した。

除草および調査地区設定後、重機で耕作土を除去し、その後作業員を投入して包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影、遺構平面図・断面図作成などの記録・図化作業を順次実施した。写真撮影にはデジタル一眼レフレックスカメラ（3600万画素）を使用した。遺構平面図作成においては、トータルステーションおよびドローンによる空中写真測量を実施した。

A地区は7月19日に終了し、引き続きB地区の表土掘削を実施した。B地区は11月19日に遺構掘削を終了した。その後、埋戻しおよび撤収作業を実施し11月30日に現地作業を終了した。

調査地区には10m×10mのグリッドを設定し、世界測地系（2011）で平面直角座標系の第Ⅶ座標系（原点は北緯36° 00′ 00″，東経137° 10′ 00″）に合わせた。東西方向をアルファベット、南北方向を数字を付して表記し、グリッド南西隅の杭名がそのグリッドを表すものとした。A1の座標点は、原点より西へ8.050km、北へ83.270km向かった位置である。



第5図 グリッド配置図（1／1,500）

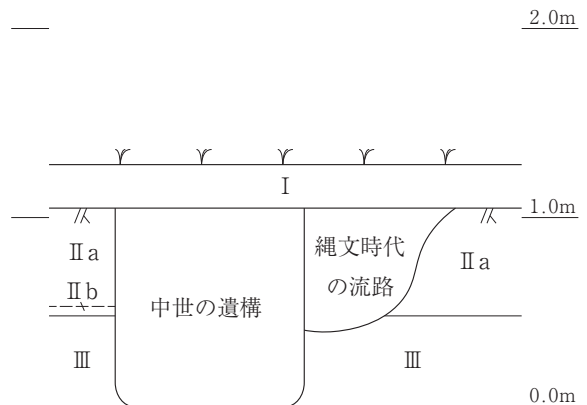
## 第2節 基本層序

調査地区の基本層序は3層に区分される。各層序は以下の通りである。

第Ⅰ層は、黒褐色細粒砂質シルトで現在の耕作土である。厚さは約20cmを測る。

第Ⅱ層は、褐灰色粘土質シルト（Ⅱa）を基本とし、下部は部分的に褐灰色細粒砂質シルト（Ⅱb）が堆積する。この層の上面が遺構検出面である。この層中では遺物の包含は認められないため、これより下層は地山と判断する。

第Ⅲ層は褐灰色中～細粒砂で、地下水を豊富に含んでいる。このため、井戸や溝はこの層まで基本的に掘削する。



第6図 基本層序模式図



## 第3節 遺構

### 掘立柱建物址

#### 1号建物（S B01、第12・19・21図、図版9）

調査地区の南側、A3・B3区で検出した。東西棟の側柱の掘立柱建物址である。桁行3間（5.7m）×梁間1間（2.4m）である。棟方位は方眼北より66°西に偏っている。掘り方は直径14～33cmの方形を基本とする。深さは3～15cmを測る。

#### 2号建物（S B02、第12・16・22図）

調査地区の南側、B5区で検出した。東西棟の側柱の掘立柱建物址である。桁行1間（1.8m）以上×梁間2間（1.8m）で、西側は調査地区外に延びる。棟方位は方眼北より69°東に偏っている。掘り方は直径15～46cmの方形を基本とする。深さは4～10cmを測る。

### 柵址

#### 1号柵址（S A01、第12・19・22図）

調査地区の南側、A3区で検出した。調査地区の南西隅で検出し、掘立柱建物の北端部となる可能性があるため柵址とした。また、S D37はS A01と直交していることから区画溝もしくは掘立柱建物の場合は雨落ち溝の可能性はある。

#### 井戸址（S E01～18、第11～20・23～27図、図版6・7・9・10）

個々の遺構については第1表 井戸址一覧に取りまとめた。以下に概要を記載する。

各井戸は、湧水層である第Ⅲ層まで掘削する。平面形は、隅丸方形（S E12・13）、馬蹄形（S E11）、その他は円形を基調とする。井戸側はS E12・15で検出した。S E12は木枠は縦板組隅柱横棧どめで、木枠最下部外面に横板を配置する。木枠内部には水溜として直径60.0cm、高さ60.0cmの曲物を設置する。S E15は下部に2段積みの曲物が残存し、断面観察から井戸側上部は抜き取られた可能性が高い。

#### 土坑（S K01～11、第11～20・28図、図版10）

個々の遺構については第2表 土坑一覧に取りまとめた。以下に主要な遺構を記載する。

#### 5号土坑（S K05、第12・17・28図、図版10）

平面形は楕円形で、長軸3.68m、短軸2.17m、深さ1.13mを測る。出土遺物は、土師器、珠洲、土製品（粘土塊）、木製品（漆器皿、箸、呪符木簡など）である。遺構内からは約350点の箸が出土した。また、覆土の水洗から、イネ・ソバ・ゴマ・ナスなどの食用栽培植物の種が出土した。

### 道路址

#### 1～3号道路址（S F01～03、第11～14・16・17・29、図版11）

1号道路址は南北方向に延び、北側は調査地区外に延びる。方眼北より東へ約12°振っており、S D04・05を伴う。長さ30.6m以上、幅は溝の心々間で2.10m、路面幅で0.37～1.06mを測る。2・3号道路址は東西方向に延び、両端は調査地区外に延びる。方眼北より約70°西へ振っている。S D22を境に喰違があり、西側をS F02、東側をS F03とした。S D18・S D17＝S D20、S D19を伴う。長さ45.0m以上、溝の心々間で2.10～4.50m、路面幅で0.83～2.70mを測る。

### 溝

個々の遺構については第3～5表 溝一覧に取りまとめた。時期としては、S D26・27・38が近現代で、それ以外は鎌倉時代後期のものである。

#### 屋敷区画溝（S D21～23・29・31、第12・16～20・31図、図版4・11）

道路址S F02・03の南側側溝S D18・20に繋がる溝群で方形区画される。規模は東西約28m、南北

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形	遺物	備考
S E01	E12	1.80	1.30	0.90	円形	珠洲、八尾、木製品（漆器、曲物、桶、付木、端材、棒材（角）、棒材（丸）、板材、炭化材）	S E02・S P119に切られる。
S E02	E12	1.61	1.45	1.13	円形	弥生土器、土師器、木製品（漆器、箸、曲物、棒材（丸）、板材、焼木、加工木）	S E01を切る。
S E03	E10	1.73	1.39	0.63	楕円形	土師器、木製品（箸）	
S E04	E9・E10	1.48	1.42	1.09	不整形円形	珠洲、木製品（箸、板材）	
S E05	E8	1.10	1.00	0.75	不整形円形	木製品（箸）	
S E06	D8・E8	1.24	0.92	0.64	楕円形	土師器	
S E07	D5	1.76	1.46	1.18	楕円形	土師器、珠洲、土製品（粘土塊）、木製品（曲物、板材、柄）	
S E08	C7	1.24	1.10	0.98	円形	土師器、珠洲、木製品（箸、曲物、栓、板材）	S D38に切られる。
S E09	D5	0.99	0.83	0.67	楕円形	珠洲、木製品（瓢箪）	
S E10	E4	2.05	1.62	0.95	不整形楕円形	珠洲、木製品（曲物）	
S E11	D5	2.15	1.13	1.01	馬蹄形	土師器、珠洲、土製品（粘土塊）、石製品（砥石）、木製品（板材）、編物	
S E12	B4	1.56	1.40	2.78	隅丸方形	土師器、木製品（箸、曲物、板材、端材、棒材（丸）、棒材（角）、杭、組物）	木枠は縦板組隅柱横棧どめ。木枠最下部は横板あり。水溜に曲物設置。
S E13	B4	1.85	1.76	1.38	隅丸方形	弥生土器、土師器、珠洲、青磁、越中瀬戸、土製品（粘土塊）、木製品（箸、菜箸、曲物、草履、棒材（丸）、棒材（角）、板材、杭、竹）	
S E14	B5・C5	1.77	1.50	1.13	不整形楕円形	縄文土器、土師器、珠洲、木製品（板、棒材（角））	
S E15	C4	0.85	0.83	1.27	円形	木製品（箸、端材、素材（樹皮））	曲物の井戸側2段。
S E16	D4	0.87	0.84	0.68	円形		
S E17	C5・D5	0.75	0.71	0.89	不整形円形	木製品（箸、棒材（角）、板材）	
S E18	A4	0.97	0.84以上	1.32	円形	珠洲、木製品（板材）	西側は調査地区外に延びる。

第1表 井戸址一覧

遺構名	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形	遺物	備考
S K01	G11	0.80	0.81	0.21	円形		
S K02							欠番
S K03	E10	0.60	0.56	0.49	円形		
S K04	E8	0.89	0.66	0.36	隅丸長方形		
S K05	D5	3.68	2.17	1.13	楕円形	土師器、珠洲、土製品（粘土塊）、木製品（漆器皿、箸、菜箸、板杓子、曲物、呪符木筒、棒材（丸）、棒材（角）板材、部材、炭化材、削りかす、竹、不明）	
S K06							欠番
S K07	E3	1.04	0.93	0.82	楕円形	土師器、木製品（箸、板材）、編物	暗渠に切られる。
S K08	C4・D4	0.91	0.48以上	0.58	楕円形	土師器、珠洲、瀬戸美濃	暗渠に切られる。
S K09	C3	0.63	0.59	0.40	円形	土師器	
S K10	C2	0.61	0.59	0.63	円形		
S K11	E3	0.82	0.67	0.61	楕円形		

第2表 土坑一覧

約23mを測る。西から南西側を区画するS D21・31では明確に新旧関係の確認が見られなかったが、東から南東側を区画するS D23・29では、S D29からS D23へと南側に変遷する。

自然流路（NR01～04、第11～18図）

調査地区の北半部で南西から北東方向に流れる自然流路を4条確認した。出土遺物は縄文土器、土師器、珠洲である。流路の覆土は3層に分類でき、下層から縄文時代晩期の縄文土器やオニグルミなどの種子が出土した。鎌倉時代の遺物は上層から出土している。また、流路上部は部分的に第Ⅱ層が堆積しており、鎌倉時代の溝掘削土による整地層に推定できる。平成30年に実施した調査区西側の試掘調査でも神楽川の旧流路とともに本遺構に繋がる流路も検出しており、神楽川が形成する網目状の流路に位置付けできる。

遺構名	グリッド	方位	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	遺物	備考
S D01	F5～6 G5～11 H9～11	N - 9° - E	59.77	2.77～ 3.62	0.48～ 0.58	縄文土器、弥生土器、土師器、珠洲、八尾、木製品（漆器椀、漆器皿、皿、俎板、曲物、差歯下駄、棒材（丸）、棒材（角）、棒材（有頭）板材、端材、部材、焼木、杭）	S D02・06・19と接続する。NR01を切る。
S D02	E7・F7 G7	W - 4° - N	11.91	1.15～ 1.71	0.08～ 0.80	縄文土器、土師器、珠洲、木製品（曲物）	S D01・03と接続する。西端部に土橋あり。
S D03	E5～8 F7～12	N - 9° - E	64.47 以上	0.71～ 4.55	0.04～ 0.95	縄文土器、土師器、珠洲、八尾、白磁、青磁、土製品（粘土塊）、石製品（砥石）、木製品（漆器椀、漆器皿、箸、差歯下駄、棒材（丸）、棒材（角）、板材、端材、樹皮、加工木、杭）	S D02・06・09・19と接続する。NR01・02を切る。中央部に土橋あり。北側は調査地区外に延びる。
S D04	C7～8 D6～9 E6	N - 12° - E W - 18° - N	39.95	0.58～ 2.10	0.12～ 0.47	縄文土器、土師器、珠洲、八尾、土製品（土玉）、石製品（砥石）、銅製品（銅銭）、木製品（漆器椀、漆器皿、箸、菜箸、曲物、包丁（鞘）、棒材（丸）、板材、端材、部材、炭化材、有頭棒）	L字状の溝。S F01の東側側溝。S D16と接続する。NR01を切る。
S D05	C6～9 D8～9	N - 14° - E	26.86 以上	1.54～ 1.94	0.48～ 1.03	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、八尾、青磁、土製品（粘土塊、釉薬瓦）、石製品（砥石）、木製品（漆器椀、漆器皿、箸、菜箸、俎板、曲物、差歯下駄、素材束、棒材（丸）、棒材（角）、板材、端材、楔状木製品、杭、焼木、炭化材、樹皮、削りかす、加工木、組物）、編物	3箇所畝状に浅い掘削箇所あり。S F01の西側側溝。S D16・17と接続。NR01を切る。北側は調査地区外に延びる。
S D06	D10～11 E11・F11 G11・H11 I11	W - 1° - N	47.31 以上	0.42～ 4.53	0.62	縄文土器、須恵器、土師器、瓦質土器、珠洲、木製品（漆器椀、漆器皿、箸、曲物、差歯下駄、鋏、棒材（丸）、棒材（角）、板材、部材、杭）	S D01・03・08と接続する。S D03との接合点で喰違があり、部分的に二重となる。両端は調査地区外に延びる。NR01・02・04を切る。
S D07	I10	W - 13° - N	4.84	0.61～ 0.70	0.10～ 0.32		NR01を切る。
S D08	I10～11	N - 17° - E	5.26 以上	1.23 以上	0.43		S D06に接続する。北側・東側・南側は調査地区外に延びる。
S D09	F11～12 G11～12	W - 5° - N	5.12 以上	0.77～ 0.82	0.13～ 0.26		S D03と接続する。東側は調査地区外に延びる。

第3表 溝一覧〔1〕



遺構名	グリッド	方位	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	遺物	備考
S D10	F11~12	N-16°-E	9.18 以上	1.00~ 1.09	0.04~ 0.30	土師器、木製品(棒材(角))	N R03・04を切る。北側は調査地区外に延びる。
S D11	E11~12 F11~12	N-10°-E	10.28 以上	1.36~ 1.72	0.17~ 0.20		N R03を切る。北側は調査地区外に延びる。
S D12	E11~12	N-5°-E	10.70 以上	1.16~ 1.44	0.18~ 0.62	珠洲、八尾、土製品(土錘)、木製品(棒材(角))	N R03を切る。北側は調査地区外に延びる。
S D13	E10	N-10°-E	6.04	1.06~ 1.28	0.14~ 0.43	珠洲、青磁、土製品(土錘)	N R04を切る。
S D14	D10・E10	W-11°-N	6.62 以上	1.14~ 1.41	0.01~ 0.15	土師器	西側は調査地区外に延びる。
S D15	E8~9	N-10°-E	7.02	0.75~ 1.42	0.01~ 0.04		N R02を切る。
S D16	D8	W-7°-N	8.18	0.28~ 1.26	0.06~ 0.39	木製品(板材)	S D04・05と接続する。N R02を切る。
S D17	B6・C6 D5~6 E5~6	W-20°-N	25.21 以上	1.63~ 2.72	0.20~ 1.01	土師器、土師器、珠洲、青磁、石製品(砥石)、鉄製品(包丁)、銅製品(銅銭)、木製品(漆器椀、漆器皿、箸、菜箸、包丁(鞘)、曲物、差歯下駄、斧柄、棒材(角)板材、端材、部材、杭、炭化材、竹、用途不明具)	S F02の北側側溝。S D05・20・22に接続する。N R01を切る。西側は調査地区外に延びる。
S D18	B6 C5~6 D5~6・E5	W-18°-N	24.15 以上	0.82~ 1.51	0.16~ 0.28	弥生土器、土師器、珠洲、木製品(箸、板材、端材)	S F02の南側側溝。S D21・22に接続する。西側は調査地区外に延びる。
S D19	E5~6 F5・G5	W-27°-N	21.13 以上	1.89~ 2.45	0.22~ 0.77	縄文土器、土師器、珠洲、八尾、青磁、越中瀬戸、土製品(粘土塊)、鉄滓、木製品(漆器椀、箸、差歯下駄、棒材(丸)、棒材(有頭)、板材、端材、部材、炭化材、竹)	S F03の北側側溝。S D01・03と接続する。東側に土橋あり。東側は調査地区外に延びる。
S D20	E5 F4~5・G4	W-27°-N	20.31 以上	1.63~ 3.14	0.16~ 0.74	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、土製品(粘土塊)、鉄滓、木製品(漆器椀、箸、曲物、桶、扇子、櫛、差歯下駄、呪符木簡、棒材(角)、板材、部材、端材、炭化材、削りかす)	S F03の南側側溝。S D17・22・23と接続する。東側は調査地区外に延びる。
S D21	B3~4 C3~6・D3	N-20°-E W-17°-N	南北 31.03 東西 16.96	1.23~ 3.12	0.30~ 1.09	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、八尾、青磁、土製品(土玉・粘土塊)、石製品(砥石)、木製品(漆器椀、箸、菜箸、板杓子、曲物、連歯下駄、木札、素材樹皮、棒材(丸)、棒材(角)、板材、端材、部材、焼木、樹皮、削りかす、竹)	丁字状の溝である。北側に土橋あり。S D18・22・25・31と接続する。S D33を切り、S D26・27に切られる。
S D22	C2~3 D3~5・E5	N-28°-E	37.79 以上	1.08~ 2.26	0.24~ 0.92	弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、青磁、土製品(粘土塊)、木製品(漆器、板、部材、杭など)	S D17・18・20・21と接続する。S P107を切り、S D26・27に切られる。
S D23	D2~3 E2~3 F3~4	N-24°-E W-20°-N	南北 3.32 東西 10.39	0.91~ 2.48	0.35~ 1.00	弥生土器、土師器、土師器、珠洲、石製品(砥石)、木製品(漆器皿、箸、串、板杓子、折敷、差歯下駄、板、部材、端材、焼木、炭化材、竹、丸棒、角棒、杭など)	L字状の溝。S D20と接続する。S D29を切り、S D26・27に切られる。

第4表 溝一覧〔2〕

遺構名	グリッド	方位	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	遺物	備考
S D24							欠番
S D25	B5~6・C5	W-15°-N	14.57 以上	0.49~ 1.02	0.23~ 0.28		S D21・23に接続する。西側は調査地区外に延びる。
S D26	B5・C5 D4~5・E4	W-26°-N	36.35 以上	0.44~ 0.56	0.03~ 0.09		S E17・S D21・22を切る。覆土は第I層である。西側は調査地区外に延びる。
S D27	B5 C4~5・D4 E3~4・F3	W-25°-N	44.75 以上	0.51~ 0.66	0.03~ 0.15	土師器、珠洲、近世陶器（小杉焼?）、木製品（箸、串、曲物、差歯下駄、棒材（角）、板材、端材）	S E14・15・S D21・22・23・33・35を切る。覆土は第I層である。両端は調査地区外に延びる。
S D28	A3~4 B3~4	W-26°-N	3.52 以上	0.93~ 1.12	0.63~ 0.83	縄文土器、弥生土器、土師器、土製品（粘土塊）、木製品（箸、曲物、差歯下駄、独楽、棒材（丸）、棒材（角）、板材、端材、焼木）	南側の一部は暗渠に切られる。西側は調査地区外に延びる。
S D29	D3・E2~3	W-27°-N	9.00	1.41~ 1.48	0.83~ 0.92	縄文土器、土師器、珠洲、肥前磁器、木製品（曲物、棒材（角）、板材、樹皮）	S D23に切られる。元々は、S D23は本溝に繋がっていたが、南側を掘削拡張しその掘削土で本溝が埋められたと推測。
S D30	E3~4	W-21°-N	7.29	0.43~ 1.22	0.01~ 0.10		S P07に切られる。
S D31	C3	W-18°-N	8.10	0.44~ 0.63	0.87	土師器、瓦質土器、珠洲、木製品（漆器（その他）、差歯下駄、草履、棒材（角）、板材、端材、加工木、組物、竹）	S D33を切る。
S D32	E4	W-20°-N	3.38	0.65~ 0.87	0.12~ 0.18		
S D33	B3・C3~4	W-74°-N N-54°-E	25.48	0.37~ 1.15	0.03~ 0.13		北東方向から北北西方向へ屈曲する。S D21・27・31・S P15・78・104・109・110・111に切られる。
S D34	C2~3	N-24°-E	3.25	0.37~ 0.44	0.12~ 0.17		北端部は暗渠に切られる。
S D35	B5	W-29°-N	2.61	0.65~ 0.92	0.22~ 0.27		S D27に切られる。
S D36							欠番
S D37	A3・B3	N-20°-E	1.88 以上	0.36~ 0.46	0.19~ 0.21		南側は調査地区外に延びる。
S D38	C7	W-20°-N	2.68 以上	0.19~ 0.38	0.01~ 0.13		S E08を切る。覆土は第I層である。西側は調査地区外に延びる。
S D39	B2~3	N-55°-E	0.70 以上	0.97	0.12		南側は調査地区外に延びる。

第5表 溝一覧〔3〕

## 第4節 遺物

### (1) 土器類

土器類として、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、珠洲、八尾、瀬戸美濃、白磁、青磁、越中瀬戸、肥前陶器、肥前磁器、近世陶器が出土した。

#### 縄文土器（第33図1～7、図版12）

1～4は深鉢である。1は口縁部が台形波状口縁で、口縁部外面に玉抱き三叉文を施す。縄文はL {R 2} である。2は胴部から底部で、胴上部に文様を施す。縄文はL {R 2} である。3は口縁部と胴部に2条の沈線文を施す。縄文はL {R 2} である。4は底部で、網代圧痕がある。5は浅鉢で、縄文はL {R 2} である。6・7は粗製土器の深鉢で外面は条痕文を施す。時期は1～5が縄文時代晩期前葉の御経塚式期、6・7は縄文時代晩期中葉の中屋式期である。

#### 弥生土器（第33図8～14、図版12）

8～11は高杯である。12は器台である。13・14は壺である。14は外面を赤彩する。いずれも弥生時代後期中葉の法仏式期ものである。

#### 須恵器（第33図15～17）

15は長頸瓶の口縁部から頸部である。16は瓶類の高台である。17は杯Bの底部である。

#### 土師器（第34図18～47、図版12）

いずれも中世の非ロクロ整形の土師器の皿である。18は口縁部を二段ナデする。19～21は口縁端部に押ナデにより面を施す。22～25は口縁部を外上方に延び、器高はやや高い。23は注口部を形成する。26～47は口縁部が外上方へ延び口縁端部をややつまみ上げる。

#### 瓦質土器（第34図48、図版13）

火鉢である。把手と2箇所穿孔がある。

#### 珠洲（第34図49～53、第35図54～63、第36図64～83、第37図84～92、第38図93、図版13）

49～83播鉢（片口鉢）である。時期は59・67・71は珠洲Ⅳ期、80～83は珠洲Ⅰ期、それ以外は珠洲Ⅲ期である。84～89は壺である。90は水注である。注口部と把手部は欠損しているが、接合痕が残存する。91～93は甕である。91は珠洲Ⅰ期、92・93は珠洲Ⅲ期である。

#### 八尾（第38図94・95、図版13）

94・95は甕である。同一個体の可能性が高い。94は胴部である。95は底部である。

#### 瀬戸美濃（第38図96・97、図版13）

96・97は卸皿である。口縁部内外面に灰釉を施す。

#### 白磁（第38図98・99、図版8）

98は椀で、口縁端部は釉剥を掻き取り口禿げとする。99は合子で、底部外面は露胎する。

#### 青磁（第38図100～106、図版8）

いずれも龍泉窯系の椀である。100・101は外面は無文である。102～104は口縁部で、外面に鎬蓮弁文を施す。105・106は底部である。105は外面に鎬蓮弁文を施す。

### (2) その他の遺物

#### 土製品（第38図107～110、図版13）

107・108は土錘である。109・110は土玉である。

#### 石製品（第38図111～117、図版13）

111は蛇紋岩製磨製石斧である。112～117は砥石である。112は鳴滝砥である。113～116は凝灰岩製である。117は砂岩製である。砥石としては、112が合砥、113～116は中砥、117は荒砥である。



銅製品（第38図118・119、図版13）

いずれも銅銭である。118は貨泉（初鑄；14年）である。119は祥符通寶（初鑄；1009年）である。120は熙寧元宝（初鑄；1068年）である。破損しているため図版掲載のみとした。

木製品（第39図121～155、第40図156～169、第41図170～189、図版8・14・15）

木製品は主要な木製品のみ図示した。出土した木製品の総量は第6表に取りまとめた。

121～140は漆器である。黒漆塗りで一部赤漆塗りによる文様を施す。121～131は椀である。123は内面に飛鶴文を施す。125は亀甲花文を施す。126は内面に文様を施す。129は内外面にスタンプ文を施す。131は内外面に文様を施す。132～140は皿である。132は内面に巴文のスタンプ文を施す。133は見込みに波文を施す。136は見込みに花文のスタンプ文を施す。141は皿である。142～151は箸である。152・153は菜箸である。154・155は板杓子である。156・157は呪符木簡である。木簡の積文は以下のとおりである。

呪符木簡156 全長247mm、幅55mm、厚さ4mmを測る。

〔令カ〕

・「>山尸鬼 急々如律□ □□」

呪符木簡157 全長150mm、幅28mm、厚さ4mmを測る。

〔 天日 〔急々如律カ〕

・ >天日（符籙） □□令

158は木札状木製品である。159・160は鞘と包丁である。包丁の柄は呑口式である。161は包丁の柄である。162～164は組板転用板材である。165は杓子状木製品である。166・167は付木である。168は独楽である。169は蓋である。170～172は曲物の底板である。173・174は楔状木製品である。175は櫛である。176は連歯下駄である。前側の歯の部分にダボによる補修痕が3箇所ある。177は差歯下駄の歯である。178は刷毛である。179は柄杓の柄である。180・181は羽子板状木製品である。182は円盤である。183は楯である。184～189は用途不明品である。189は棒材を桜の樹皮で綴じる。

編物（第32図190・191、図版7・10）

編物は、箕・ザル（ソウケ）・団扇が出土した。190は箕である。191はザル（ソウケ）である。また図版10にS E 11出土団扇の出土状況を掲載した。

飲食具	漆器椀	28	火処具	付木	6	その他	棒材（角）	137
	漆器皿	14	装身具	扇子	1		棒材（丸）	27
	漆器（その他）	10		団扇	1		棒材（有頭）	3
	漆塗膜	1	履物	櫛	2		板材	398
	皿	1		連歯下駄	1		炭	10
	箸（串）	509		差歯下駄（歯）	14		端材	54
	箸状木製品	64		差歯下駄（台）	5		楔状木製品	2
	菜箸	8		歯未製品	2		部材	13
菜箸状木製品	2	一木下駄		1	杭	16		
板杓子	5	草履	3	焼木	20			
調理・炊飯具	組板	1	遊戯具	独楽	1	炭化材	2	
	組板？	2	工 具	斧柄	1	樹皮	7	
	柄杓（柄）	2		刷毛	1	削りかす	23	
	包丁	1		篋	1	加工木	5	
	包丁（鞘）	1	農 具	楯	1	組物	4	
包丁（柄）	1	呪術具	呪符	2	竹	4		
容 器	曲物	5	祭祀具	木札	2	用途不明具	18	
	曲物（側板）	29	素材	束	1			
	曲物（底板）	19		樹皮付枝	1			
	桶	3		樹皮	1			
	蓋	3						
	栓	1						
	瓢箪	2						
	不明	9						

第6表 木製品一覧

## 第5節 種子

島田 亮仁

### 試料と方法

試料は井戸・溝・土坑から現地では採取された大型の種実遺体と、S K05の堆積物を水洗選別して得られた種実遺体である。N R01は縄文時代の自然流路で、その他は中世の井戸・溝・土坑などの集落遺構である。筆者は同定作業以後を行った。同定は科、属、種の階級で、主に現生標本との対比で行った。

### 同定結果と分類群の特徴

同定の結果、木本が8分類群、草本が26分類群の合計34分類群が同定された。同定結果を第6表（現地採取）・7（S K05水洗選別）にまとめ、同定の根拠となった形態の特徴を第8・9表に示す。更に代表的な分類群については写真を載せた。

今回得られた種実遺体群について、N R01では木本のオニグルミ・エゴノキ・コブシ・モモの4分類群があり、このうち、モモの核半分程度の1点は混入の可能性が高い。中世の遺構からは、木本のモモ・ウメ・オニグルミ・トチノキ・カキノキ属の5分類群があり、S K05の水洗選別からは木本のハンノキ、草本のミクリ属・ヘラオモダカ・イネ・ウキヤガラ・ホタルイ属A・ホタルイ属B・イボクサ・アサ・ギシギシ属・ミゾソバ・ソバ属・ヒユ属・クサネム・セリ科・シソ属・ナス属・ゴマ・ウリ類・タカサブロウなどが検出された。木本のオニグルミやハンノキは水辺などの適潤地に生育する落葉広葉樹で、ハンノキはしばしば湿地林を形成する。また、草本のミクリ属・ヘラオモダカ・ウキヤガラ・ホタルイ属A・B・イボクサ・ミゾソバは水深の比較的浅い池や水田、溝などに生育する水湿地性植物であり、クサネム・セリ科・タカサブロウもしばしば水田などの水湿地性の環境に生育する分類群である。また、ギシギシ属・ヒユ属は日当たりのよい道端や荒地など乾燥した場所に生育する陸性植物である。栽培植物にはモモ・ウメ・カキノキ属の果樹の他に、イネ・アサ・ソバ属・シソ属・ナス属・ゴマ・ウリ類がある。シソ属は直径1.5mm以上であり、またナス属も長径3.0mmといずれも大型であるため、栽培種の可能性が高い。

### 所見

N R01出土のオニグルミの核には、明らかに人為的に割られた痕跡のある個体は認められなかった。このため、縄文時代の自然流路周辺には、オニグルミが生育し、エゴノキ、コブシが混生する落葉広葉樹林が分布していたと推定される。

中世の遺構周辺では、樹木が少なく、オニグルミ・トチノキ・ハンノキの孤立木が生育する日当たりの良い開けた景観が推定される。水分条件の良好な井戸・溝・土坑内にはミクリ属・ヘラオモダカ・ウキヤガラ・ホタルイ属A・ホタルイ属B・イボクサ・ミゾソバなどの水湿地性植物が繁茂し、やや乾燥した場所にはギシギシ属・ヒユ属などの陸性植物が生育していたと推定される。また、モモ・ウメ・カキノキ属の果樹の他に、イネ・アサ・ソバ属・シソ属・ナス属・ゴマ・ウリ類の栽培植物が検出されていることから、集落内もしくはさほど離れていない場所で水田や畑地があり、これらの有用植物を栽培し、広く利用していたことが推定される。

### 参考文献

中村 亮仁 2007 「加納谷内遺跡から出土した種実遺体」『富山考古学研究紀要第10号』  
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

出土遺構	分類群 (和名/学名)		部 位	完 形	半 分	破 片
S E11	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
S E13	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	2	2	
	カキノキ属	<i>Diospyros</i>	種子	1		
S K05	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核		1	
	ウメ	<i>Prunus mume</i> Sieb. et Zucc.	核		1	
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	種子			1
S K07	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核		1	1
			果実			1
S D01	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	2		
S D03	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	3		
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	5		
S D04	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	5		
S D05	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	3	7	
S D06	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	5		3
S D17	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核		1	
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	1		
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	種子	3		
S D20	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	8	1	
S D21	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	3	13	1
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核		1	
S D22	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核		1	
S D23	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1	1	
	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	種子	1		
S D27	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
S D28	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		
N R01	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核			1
	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.	核	165	43	9
	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	核	147	26	
	コブシ	<i>Magnolia kobus</i> DC.	種子	2		
N R02	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.	核	2	8	
S P03	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i> Blume	種子	3		
E 6	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核 (炭化)	1		
F 6	モモ	<i>Prunus persica</i> Batsch	核	1		

※完形 (2/3以上)、半分 (1/3~2/3)、破片 (1/3以下)

第7表 沖塚原東B遺跡出土種実遺体群 (現地採取)

分 類 群		部 位	個 体 数
和 名 / 学 名			
木 本	arbor		
ハンノキ	<i>Alnus japonica</i> Steud.	種子	2
草 本	herb		
ミクリ属	<i>Sparganium</i>	果実	2
ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i> A. Br. et Bouche	果実	2
イネ	<i>Oryza sativa</i> Linn.	穎	8
		破片	12
イネ科	Gramineae	穎	378
ウキヤガラ	<i>Scirpus yagara</i> Ohwi	果実	45
ホタルイ属A	<i>Scirpus</i> A	果実	46
ホタルイ属B	<i>Scirpus</i> B	果実	2
スゲ属	<i>Carex</i>	果実	2
カヤツリグサ科	Cyperaceae	果実	2
ツユクサ	<i>Commelina communis</i> Linn.	種子	4
イボクサ	<i>Aneilema keisak</i> Hassk.	種子	2
アサ	<i>Cannabis sativa</i> Linn.	果実	2
ギシギシ属	<i>Rumex</i>	果実	6
ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> Sieb. et Zucc.	果実	2
イヌタデ属A	<i>Persicaria</i> A	果実	5
イヌタデ属B	<i>Persicaria</i> B	果実	35
ソバ属	<i>Fagopyrum</i>	果実	1
ヒユ属	<i>Amaranthus</i>	種子	290
オトギリソウ属	<i>Hypericum</i>	種子	2
クサネム	<i>Aeschynomene indica</i> Linn.	豆果片	2
セリ科	Umbelliferae	果実	3
シソ属	<i>Perilla</i>	果実	25
ナス属	<i>Solanum</i>	種子	3
ゴマ	<i>Sesamum indicum</i> Linn.	種子	1
ウリ類	<i>Cucumis melo</i> Linn.	種子	5
タカサブロウ	<i>Eclipta prostrata</i> Linn.	果実	4
合 計	total		893

第8表 沖塚原東B遺跡S K05出土種実遺体群 (水洗選別)



## 木本 arbor

<p>オニグルミ (<i>Juglans ailanthifolia</i> Carr.) 核：核は茶褐色で、先端の尖る卵形を呈する。断面は円形で、側面には縫合線が走る。表面には不規則な隆起がみられる。長さ17.7～33.9mm、幅14.1～29.1mmである。</p>
<p>ハンノキ属 (<i>Alnus</i>) 種子：種子は暗褐色で、倒卵形を呈する。断面は扁平で、やや波打つ。表面の中央部が溝状に大きく窪む。長さ4.0～4.5mm、幅3.0～3.2mmである。</p>
<p>コブシ (<i>Magnolia kobus</i> DC.) 種子：種子は黒褐色で、広卵形を呈する。断面は腎形で、種皮は硬い。長さ7.1～8.3mm、幅7.2～9.1mmである。</p>
<p>モモ (<i>Prunus persica</i> Batsch.) 核：核は淡褐色で、先端がやや尖る卵形を呈する。断面は楕円形で、一側面には縫合線が発達する。表面には特有の大きな隆起がある。長さ19.7～35.3mm、幅16.2～21.1mmである。</p>
<p>ウメ (<i>Prunus mume</i> Sieb. et Zucc.) 核：核は茶褐色で、先端が尖る卵形を呈する。断面は楕円形で、側面には縫合線が走る。表面には小孔が密布する。計測不可。</p>
<p>トチノキ (<i>Aesculus turbinata</i> Blume) 種子：種子は黒褐色で、球形を呈する。表面は光沢のある部分と光沢のない部分に分かれている。径23.3～29.1mmである。</p>
<p>エゴノキ (<i>Styrax japonica</i> Sieb. et Zucc.) 核：核は黒灰色で、卵形を呈する。断面は円形で、下端に大きなヘソがある。表面には3本の浅い溝が走る。長さ7.1～14.0mm、幅4.2～7.6mmである。</p>
<p>カキノキ属 (<i>Diospyros</i>) 種子：種子は茶褐色で、楕円形を呈する。断面は扁平で、表面は平滑で、微細な筋状の模様がある。縁には稜が走る。長さ13.2mm、幅9.7mm、厚さ1.9mmである。</p>

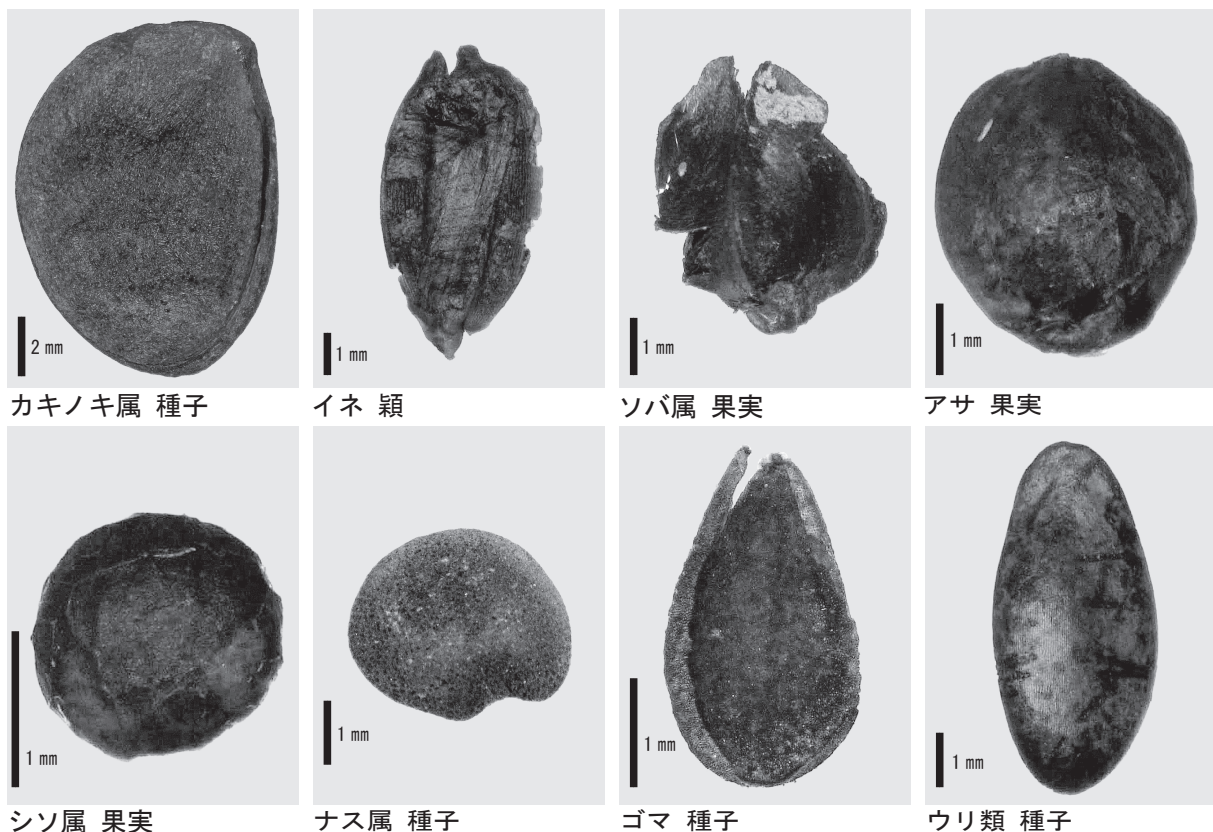
## 草本 herb

<p>ミクリ属 (<i>Sparganium</i>) 果実：果実は黄褐色で、先端が尖る倒卵形を呈す。断面は円形を呈し、表面には4～5本の筋が走る。果皮は厚く弾力がある。長さ2.5mm、幅1.5mmである。</p>
<p>ヘラオモダカ (<i>Alisma canaliculatum</i> A.Br. et Bouche) 果実：果実は淡褐色で、倒卵形を呈する。断面は扁平で、側面に一本の深い溝が走る。果皮は厚く、柔らかい。長さ2.0～2.3mm、幅1.5～1.7mmである。</p>
<p>イネ (<i>Oryza sativa</i> Linn.) 穎：穎は淡褐色～茶褐色で、倒卵形を呈する。基部には果実序柄があり、表面には顆粒状突起が規則的に並ぶ。長さ7.1～7.8mm、幅3.0～3.7mmである。</p>
<p>イネ科 (Gramineae) 穎：穎は黄褐色で、先端が尖る狭卵形を呈する。断面は片凸レンズ形で、表面には縦方向に筋状の模様がみられる。長さ3.4～3.6mm、幅1.8～2.0mmである。ヒエ属に似る。</p>
<p>ウキヤガラ (<i>Scirpus yagara</i> Ohwi) 果実：果実は黒灰色で、狭倒卵形を呈する。断面は三角形で、やや光沢がある。長さ3.0～3.8mm、幅1.5～2.0mmである。</p>
<p>ホタルイ属A・B (<i>Scirpus</i> A・B) 果実：ホタルイ属Aは黒色で、広倒卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、表面には横方向に微細な隆起がみられ、光沢がある。基部には棘状の突起を有する。長さ1.5～2.0mm、幅1.2～1.5mmである。ホタルイ属Bは黒色で、先端が尖る倒卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、表面には光沢がある。長さ2.4～2.5mm、幅1.4～1.5mmである。</p>
<p>スゲ属 (<i>Carex</i>) 果実：果実は茶褐色で、倒卵形を呈する。断面は三角形で、表面はやや硬い。先端に長い突起を有する。長さ1.3mm、幅0.7mmである。</p>
<p>カヤツリグサ科 (Cyperaceae) 果実：果実は茶褐色で、狭倒卵形を呈する。断面は片凸レンズ形で、表面はやや粗い。長さ1.2～1.4mm、幅0.6～0.7mmである。</p>
<p>ツユクサ (<i>Commelina communis</i> Linn.) 種子：種子は黒褐色～灰色で、楕円形で一端が切形を呈する。断面は半円形で、側面にはくぼんだ発芽孔がある。ヘソは線状で、一端に達する。長さ2.4～2.5mm、幅3.4～3.6mmである。</p>
<p>イボクサ (<i>Aneilema keisak</i> Hassk.) 種子：種子は黒褐色～灰色で、楕円形を呈する。断面は半円形で、側面にはくぼんだ発芽孔がある。ヘソは線状で、両端に達しない。長さ1.8～3.1mm、幅2.5～4.2mmである。</p>
<p>アサ (<i>Cannabis sativa</i> Linn.) 果実：果実は茶褐色で、広倒卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、基部に円形のヘソがある。表面には微細な網目模様がみられる。長さ3.7～4.3mm、幅3.1～3.8mmである。</p>
<p>ギンギシ属 (<i>Rumex</i>) 果実：果実は茶褐色～黒褐色で、先端が尖る広卵形を呈する。断面は三角形で稜が発達する。表面にはやや光沢がある。長さ2.7～2.8mm、幅1.8～1.9mmである。</p>
<p>ミゾソバ (<i>Persicaria thunbergii</i> Sieb. et Zucc.) 果実：果実は淡褐色で、先端が尖る広卵形を呈する。基部には果柄がみられる。断面は三角形で、表面には微細な網目模様がみられる。果皮は柔らかく、やや変形している。長さ4.5～5.0mm、幅2.5～2.6mmである。</p>

## 第9表 沖塚原東B遺跡出土種実分類群〔1〕

<p>イヌタデ属A・B (<i>Persicaria</i> A・B)  果実：イヌタデ属Aは黒褐色で、先端が尖る広卵形を呈する。断面は三角形で、表面にはやや光沢がある。長さ2.7～3.2mm、幅1.5～1.8mmである。イヌタデ属Bは黒褐色で、先端が尖る広卵形を呈する。断面は両凸レンズ形で、基部には果柄が残る。長さ2.7～3.2mm、幅1.2～1.9mmである。</p>
<p>ソバ属 (<i>Fagopyrum</i>)  果実：果実は茶褐色で、先端が尖る卵形を呈する。断面は三角形で稜が発達する。表面には縞状の模様があり、やや粗い。長さ5.0mm、幅4.1mmである。</p>
<p>ヒユ属 (<i>Amaranthus</i>)  種子：種子は黒色で、円形を呈する。断面は両凸レンズ形である。側面の一端がややくぼむ。表面には光沢がみられる。直径1.0～1.3mmである。</p>
<p>オトギリソウ属 (<i>Hypericum</i>)  種子：黒色で、両端に小突起のある線形を呈する。表面には横長の網目模様があり、鈍い光沢がある。長さ1.1～1.2mm、幅0.5mmである。</p>
<p>クサネム (<i>Aeschynomene indica</i> Linn.)  豆果片：豆果の破片である。淡褐色～茶褐色で、先端がやや尖る楕円形で、一端が切形を呈する。断面は扁平で、中央付近の表面には瘤状の突起がみられる。長さ4.9～5.0mm、幅7.2～7.8mmである。</p>
<p>セリ科 (Umbelliferae)  果実：果実は淡褐色を呈し、倒卵形を呈する。断面は凸レンズ形で、表面に3本の明瞭な隆起が走る。果皮は柔らかい。長さ3.4～3.5mm、幅2.2～2.3mmである。</p>
<p>シソ属 (<i>Perilla</i>)  果実：シソ属は黄褐色で、球形を呈する。下端は唇状にやや突出する。表面には網目が不規則にみられる。直径1.5～1.9mmである。</p>
<p>ナス属 (<i>Solanum</i>)  種子：種子は黄褐色で、円形を呈する。断面は扁平で、表面にはやや大きな網目模様がある。径3.0～3.8mmである。</p>
<p>ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> Linn.)  種子：種子は黄褐色で、卵形を呈する。断面は楕円形で、表面には微細な網目模様がある。長さ3.0mm、幅1.8mmである。</p>
<p>ウリ類 (<i>Cucumis melo</i> Linn.)  種子：種子は淡褐色で、狭卵形を呈する。断面は扁平で、上端には「ハ」字状のへこみがある。計測可能なのは4個体。長さ×幅 (mm) は6.5×3.0、6.9×3.2、7.3×3.5、7.8×3.7である。</p>
<p>タカサブロウ (<i>Eclipta prostrata</i> Linn.)  果実：果実は淡褐色～茶褐色で、長倒卵形を呈する。断面は菱形で、果皮は厚い。上端には円柱状の突出部があり、下端にへこんだへソがある。表面の中央部には瘤状となっている。長さ2.7～2.8mm、幅1.4～1.5mmである。</p>

第10表 沖塚原東B遺跡出土種実分類群〔2〕



第7図 沖塚原東B遺跡出土種実

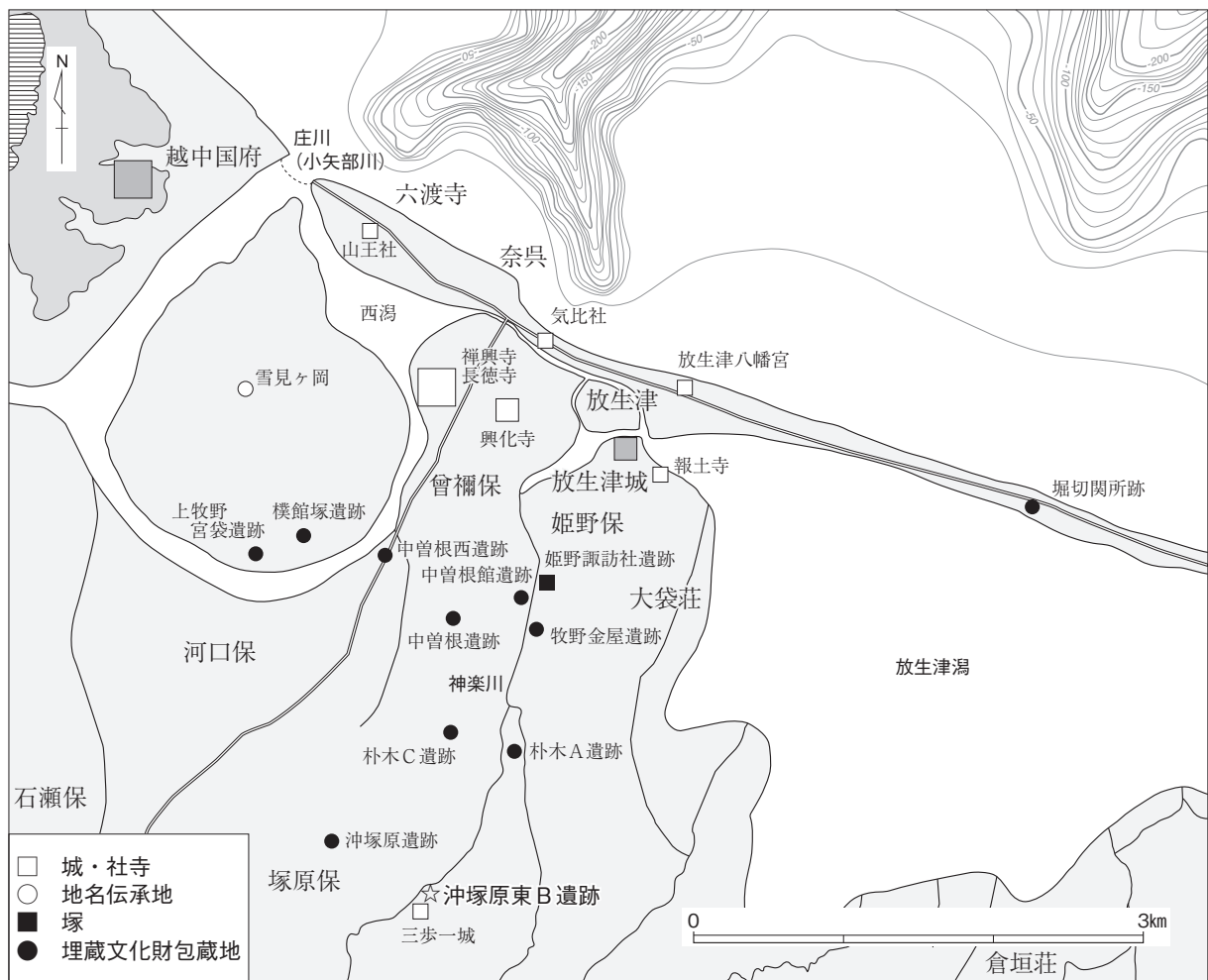
## 第4章 総括

今回の調査では、中世の区画溝で囲まれた集落址を検出した。時期は珠洲編年（吉岡1994）でⅢ期を主体とし、Ⅳ期が下限である。また、Ⅰ期に対応する珠洲のほか土師器・青磁も出土しているが、遺物に対応する明確な遺構は確認できず、平成30年度調査地区の成果を加味すると、当遺跡の鎌倉時代の集落は13世紀後半から14世紀前葉にかけての短期間に営まれたと推定できる。

### 鎌倉時代以前

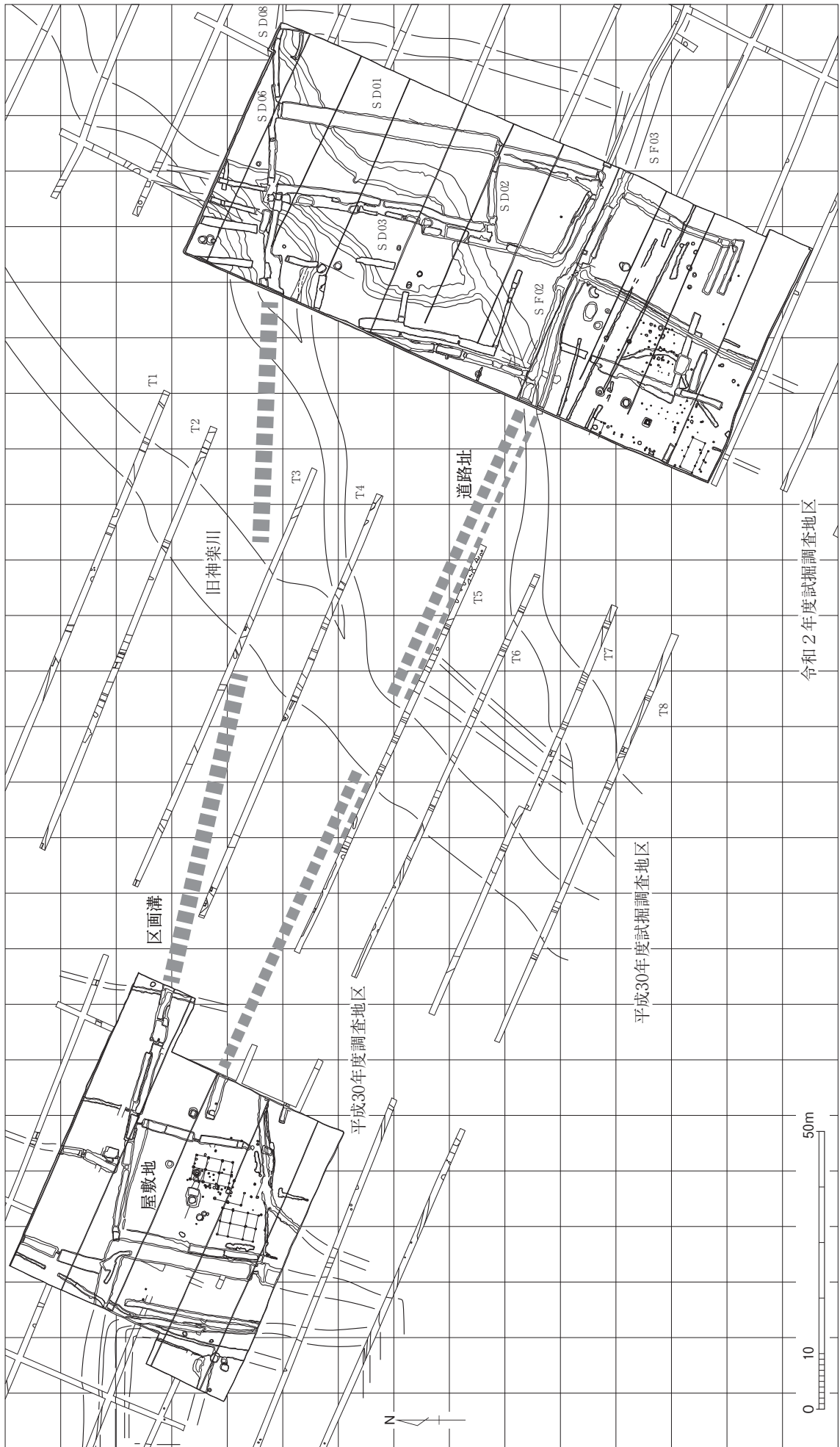
自然流路NR01～04がある。流路方位は南西～北東方向に流れており、網の目状になっている。調査地区西側には神楽川がほ場整備以前に同方向で流れており、NR01～04は神楽川の一部であると推定できる。NR01からは縄文時代晩期前葉～中葉の御経塚式・中屋式の縄文土器が出土している。また最上層は第Ⅱ層が部分的に堆積しており、鎌倉時代の区画溝を掘削した際に整地したと推定できる。

弥生時代の遺物として弥生土器・銅銭（貨泉）がある。弥生土器は弥生時代後期中葉の法仏式期を主体とする。銅銭として貨泉（初鑄14年）が出土した。富山県内では射水市布目沢埋納銭に1点ある。重量は1.30gで新代に鑄造された3.17gより軽く、後漢以降に鑄造されたものと推定できる（兵庫県教委2017）。出土状態は鎌倉時代の溝SD04内で、鎌倉時代の渡来銭の1つに推測する。



第8図 沖塚原東B遺跡周辺歴史考古地図（1/50,000）





第9図 沖塚原東B遺跡遺構配置図 (1/1,000)

## 鎌倉時代の集落

鎌倉時代の初期の遺物として、珠洲Ⅰ期の土師器・珠洲・青磁が出土している。ただし、これに伴う遺構は確認されていないが、周辺に集落が存在している可能性がある。

本調査地区に本格的な集落を形成するようになるのは珠洲Ⅲ～Ⅳ期併行期である13世紀後半から14世紀前半である。遺構出土遺物からは、珠洲Ⅲ期である13世紀後半から14世紀初頭を中心とするが、14世紀前半代（珠洲Ⅳ期）として井戸址 S E 08と屋敷区画溝の南西内側である S D 29から出土した。特に S D 29は南西外側の屋敷区画溝である S D 23の掘削土により埋め戻されていると推定できることから、屋敷区画溝南側は S D 21 = S D 29の内側区画溝から S D 31 = S D 23の外側区画溝へ14世紀前半頃に変更され、屋敷区画が拡張されたと推測できる。

調査地区北半部を東西方向に区画する溝 S D 01・03・08は、南限を道路址 S F 02・03、北限を溝 S D 06としている。溝 S D 01・03・08に区画された内部には井戸や柱穴などの遺構は存在しない。また、溝 S D 06より北側は幅の狭い南北方向の溝を掘削するなどのことから、当遺跡周辺は放生津潟周辺の滞水域であり、溝を掘り用排水とするクリーク水田が広がっていると推測する。

溝 S D 06を西側へ延長すると平成30年度調査地区の屋敷地北側区画溝、道路址 S F 02を西側へ延長すると屋敷地中央部の区画溝にそれぞれ接続することから、当遺跡は神楽川の両岸を計画的に整備されていったことが窺える。

当調査地区の掘立柱建物や井戸は西側に偏在していることから、集落は調査地区の西側に広がる可能性が高く、平成30年度試掘調査地区 T 5 トレンチの東側でも柱穴群を検出している。道路址 S F 02

西暦	年号	事	項	備	考
1180	治承4			源頼朝が侍所設置。	
1184	寿永3			源頼朝が公文所（後に政所と改称）、問注所設置。	
1185	文治元	藤原光隆が越中知行国主に推挙される。		平氏滅亡。源頼朝が守護・地頭を設置。	
1192	建久3	伊勢神宮禰宜らが射水御厨の供祭物御鮭100・生鮭50隻の未進などを注進する。		源頼朝が征夷大將軍に任命される。	
1203	建仁3			比企能員の変が起こる。	
1212	建暦2	「越中国百万遍勤修人名」が作成される。 越前氣比神宮政所が神領目録を注進し、越中国奈古浦から布・鮭桶・平割鮭・貢神鮭・人料鮭の貢納を記す。			
1221	承久3	幕府方北条朝時ら4万人が承久の乱で北陸道を西上する。		承久の乱が起こる。	
1239	延応元	東条・河口・曾祢・八代の4か保の地頭らが地頭請所として九条道家を通じ東福寺に寄進し、国免荘の権利を与えられる。			
1272	文永9			二月騒動が起こる。	
1274	文永11			文永の役が起こる。	
1281	弘安4			弘安の役が起こる。	
1284	弘安7	越中・越後両国守護名越公時が、河手（碓泊料）・津泊市津料・沽酒（酒の売買）・押買の4箇条の禁令を伝える。			
1285	弘安8			霜月騒動が起こる。	
1292	正応5	時宗他阿真教が放生津で歳末別念仏を催し、武士南条九郎らを教化する。放生津の地名が初めて史料に現れる。			
1306	嘉元4	大袋庄東放生津の沙弥本阿が越前三国湊で関東御免津軽船とその積荷を押収され、鎌倉幕府問注所へ提訴する。			
1307	徳治2	鎌倉幕府は沙弥本阿を勝訴とし三国湊に賠償を命じるも、三国湊はこれに応じない。			
1311	応長元	沙弥本阿が則房を代理人として問注所に再び提訴する。			
1316	正和5	沙弥本阿が則房を代理人として問注所に再度提訴する。			
1320	元応2	放生津と三国湊との間で示談が成立し、賠償金の請取人を越前長崎の時宗而印念寺の蘭阿弥陀仏とする。			
1331	元弘元			元弘の乱が起こる。	
1332	元弘2			後醍醐天皇が隠岐に配流される。	
1333	元弘3	越中守護名越時有が恒性皇子を殺害する。 名越時有が放生津城で討死にし、放生津城が落城する。		鎌倉幕府が滅亡する。	
1334	建武元			建武の新政が始まる。	
1338	歴応4 延元3			足利尊氏が征夷大將軍に任命され、室町幕府を開く。	

第11表 沖塚原東B遺跡関連年表

を延長部ではあるが東西方向の側溝を検出していないため、T5トレンチの北側に道路址が位置していると想定できる。柱穴群と旧神楽川の間には溝2条を検出しており、神楽川右岸の集落の西端部に位置すると推測できる。

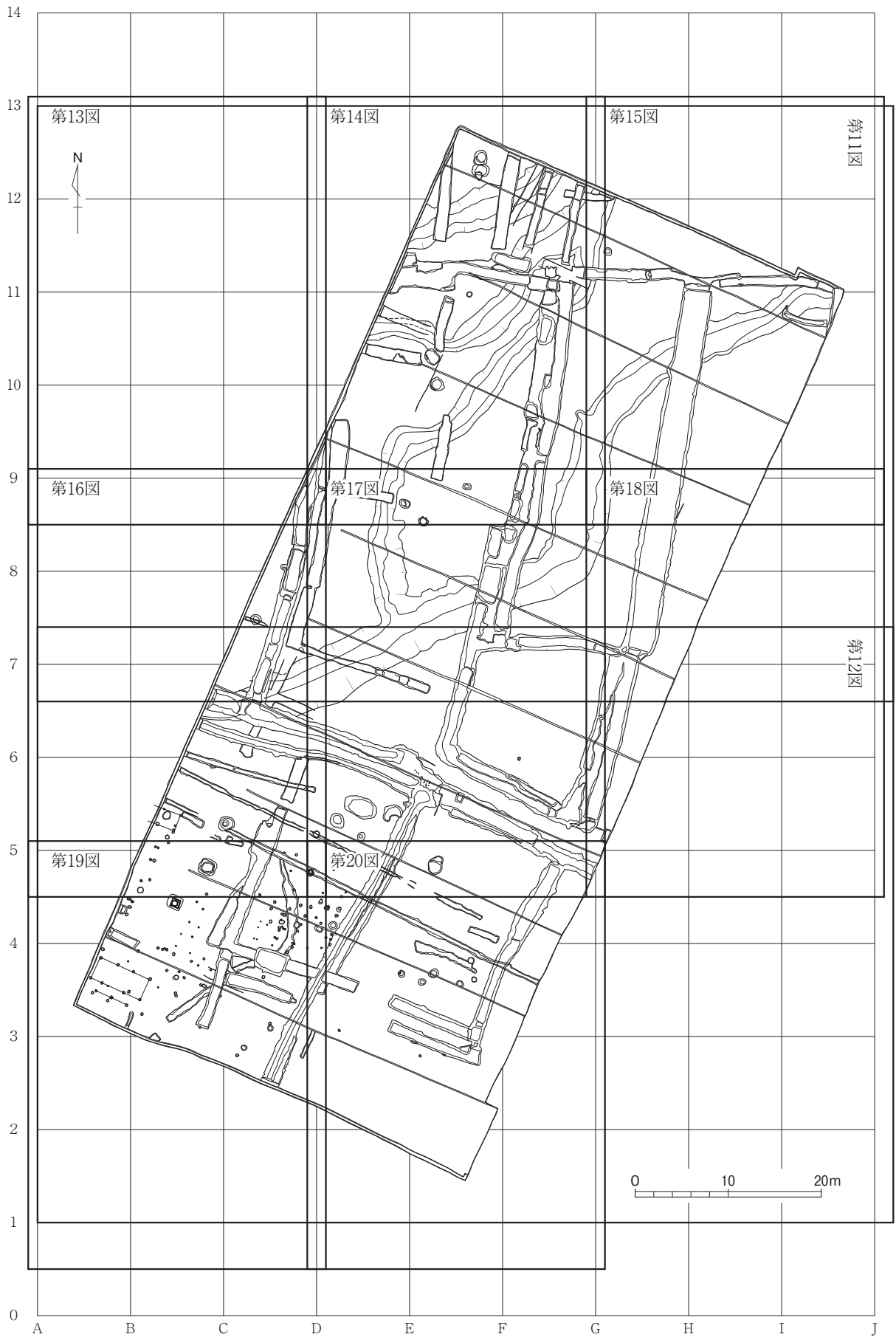
当遺跡から北側約3kmの地点に鎌倉時代中期以降に守護所として築城された放生津城が立地し、神楽川によって結びついている。神楽川流域の開発は鎌倉時代中期以降に活発化していることから鎌倉時代の放生津城に関連する集落の1つとして当遺跡が位置付けができる。

珠洲V期以降の遺物は遺構内からは出土していない。承久の乱以降の越中守護は北条家一門の名越氏が務めており、元弘3年(1333)年に放生津城が倒幕方の勢力により落城しており、当遺跡の遺物出土時期である珠洲Ⅲ～Ⅳ期(13世紀後半～14世紀中頃)とも合致していることから当遺跡が鎌倉時代の放生津城と密接な関係を想定できる。

#### 参考文献

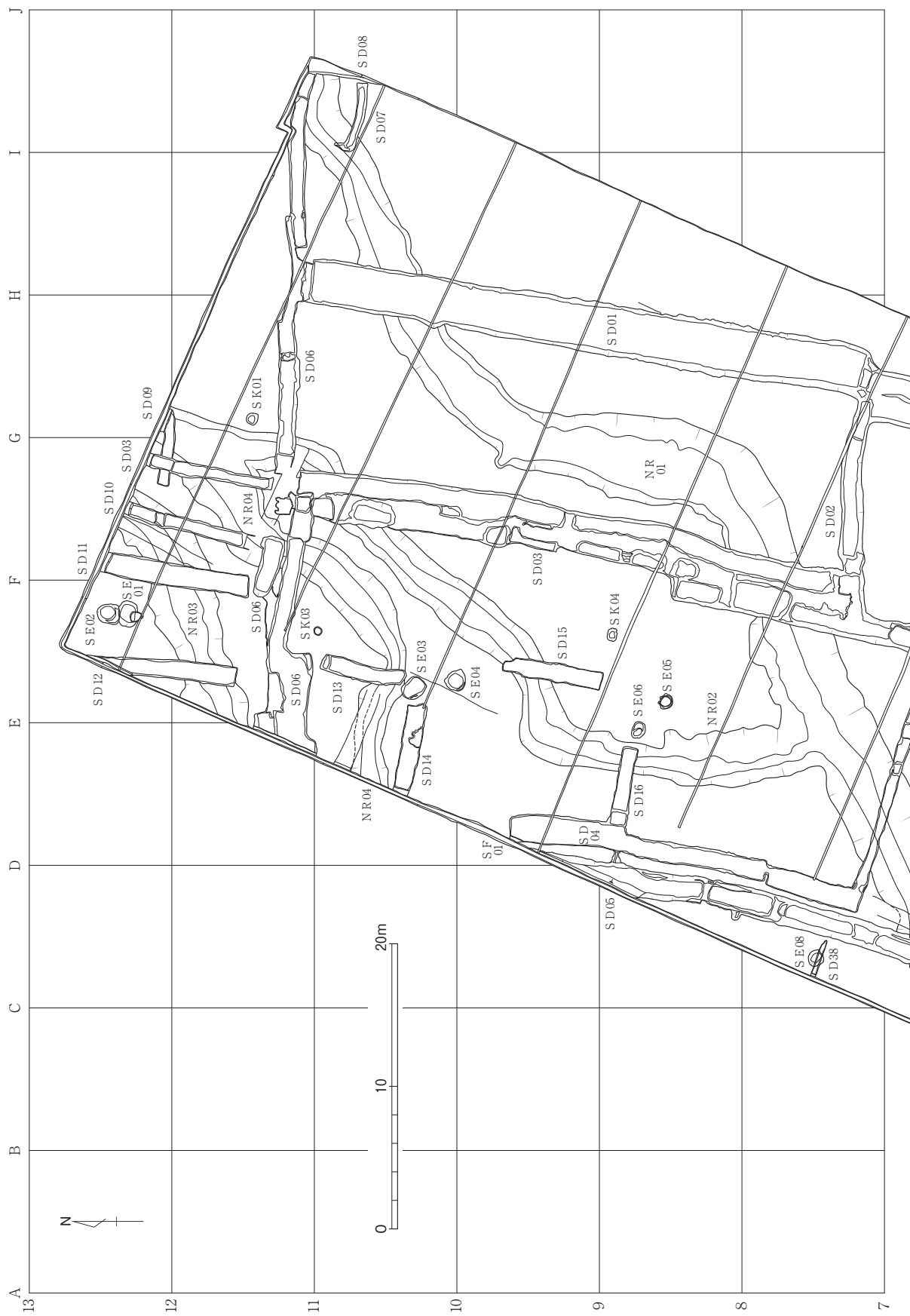
- 青木 一彦他 1996 「射水平野の遺跡－古代北陸道を探る－」『大境』第18号 富山考古学会
- 青木 一彦他 1997 「中世放生津について」『大境』第19号 富山考古学会
- 青山 裕子他 2013 『白石遺跡・大江東遺跡・大江遺跡・愛宕遺跡・今開発東遺跡・今開発遺跡・三ヶ・本開発遺跡発掘調査報告』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 荒木 菊男他 1997 『しんみなとの歴史』 新湊市
- 安念 幹倫他 1995 『北高木遺跡発掘調査報告書』 大島町教育委員会
- 宇野 隆夫 1982 「井戸考」『史林』第65巻第5号 史学研究会
- 越前 慎子 1996 「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 越前 慎子他 2012 『水上遺跡・赤井南遺跡・安吉遺跡・棚田遺跡・本江大坪Ⅰ遺跡発掘調査報告』 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 岡田 一広他 2010 『中曽根西遺跡発掘調査報告Ⅱ』 高岡市教育委員会
- 岡田 一広他 2019 『沖塚原東B遺跡発掘調査報告』 射水市教育委員会
- 尾野寺克実 1999 『安吉遺跡発掘調査報告』 大門町教育委員会
- 尾野寺克実他 2005 『安吉遺跡発掘調査報告(3)』 大門町教育委員会
- 金三津英則他 2008 「中世放生津の都市構造と変遷」『基盤研究(B)研究成果報告書 港湾をともなう守護所・戦国期城下町の総合的研究－北陸を中心に－』(代表:仁木 宏、課題番号:1732003)
- 可児 通宏 2008 「縄文の施文原体と文様」『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション
- 久々 忠義 1991 『荒畑遺跡発掘調査概要』 大島町教育委員会
- 久々 忠義他 1994 「射水平野の遺跡－神楽川流域を探る－」『大境』第16号 富山考古学会
- 楠瀬 勝他 1984 『富山県史 通史編Ⅱ 中世』 富山県
- 酒井 重洋 2008 「中屋式土器」『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション
- 宗 融子 1998 『新湊市埋蔵文化財分布調査報告Ⅰ』 新湊市教育委員会
- 高瀬 重雄他 1994 『富山県の地名』 平凡社
- 田中 明 2005 『北高木遺跡』 大島町教育委員会
- 近岡七四郎他 1964 『新湊市史』 新湊市役所
- 西野 秀和 2008 「御経塚式土器」『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション
- 藤澤 良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 松永 篤知 2008 「網代・敷物」『総覧 縄文土器』 アム・プロモーション
- 元木 靖 1997 「日本における滞水性低地の開発－クレーク水田地域の比較歴史地理序説－」『歴史地理学』第39巻第1号 歴史地理学会
- 山口 正紀 2014 「中世都市鎌倉の木の利用と役割」『木の中世－資源・技術・製品－資料集』 考古学と中世史研究会
- 山本 信夫他 2000 『太宰府条坊址Ⅳ－陶磁器分類編－』 太宰府市教育委員会
- 吉岡 康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
- 鎌倉歴史文化交流館 2018 『出土漆器の美』
- 鎌倉歴史文化交流館 2020 『中国陶磁－青磁・白磁への憧れ－』
- 兵庫県教育委員会他 2017 「南あわじ市入田稲荷前遺跡における貨泉の出土について」

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/kisya29/2905/290518bunkazai.html> (参照2022.3.18)

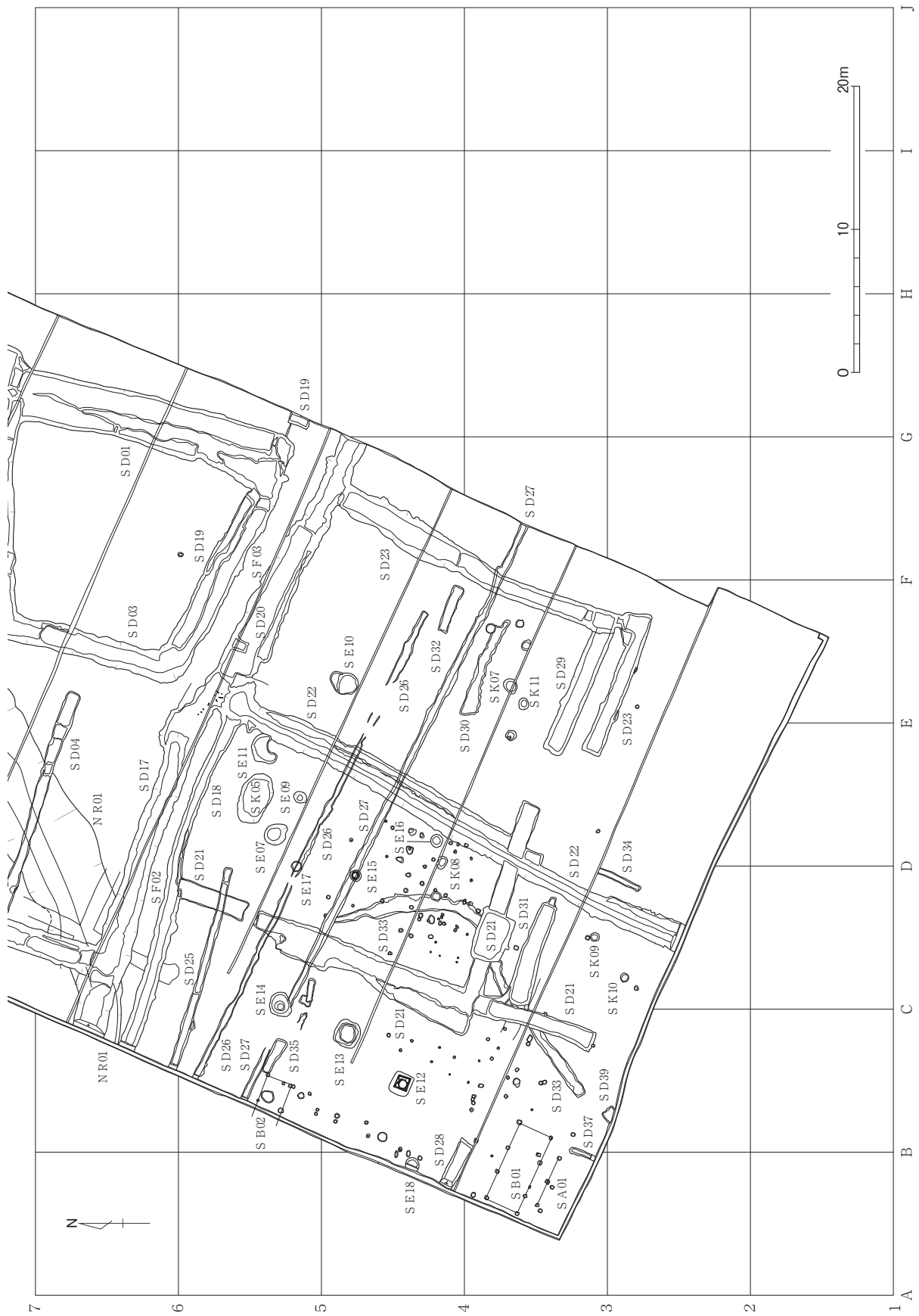


第10図 図面配置図 (1/600)

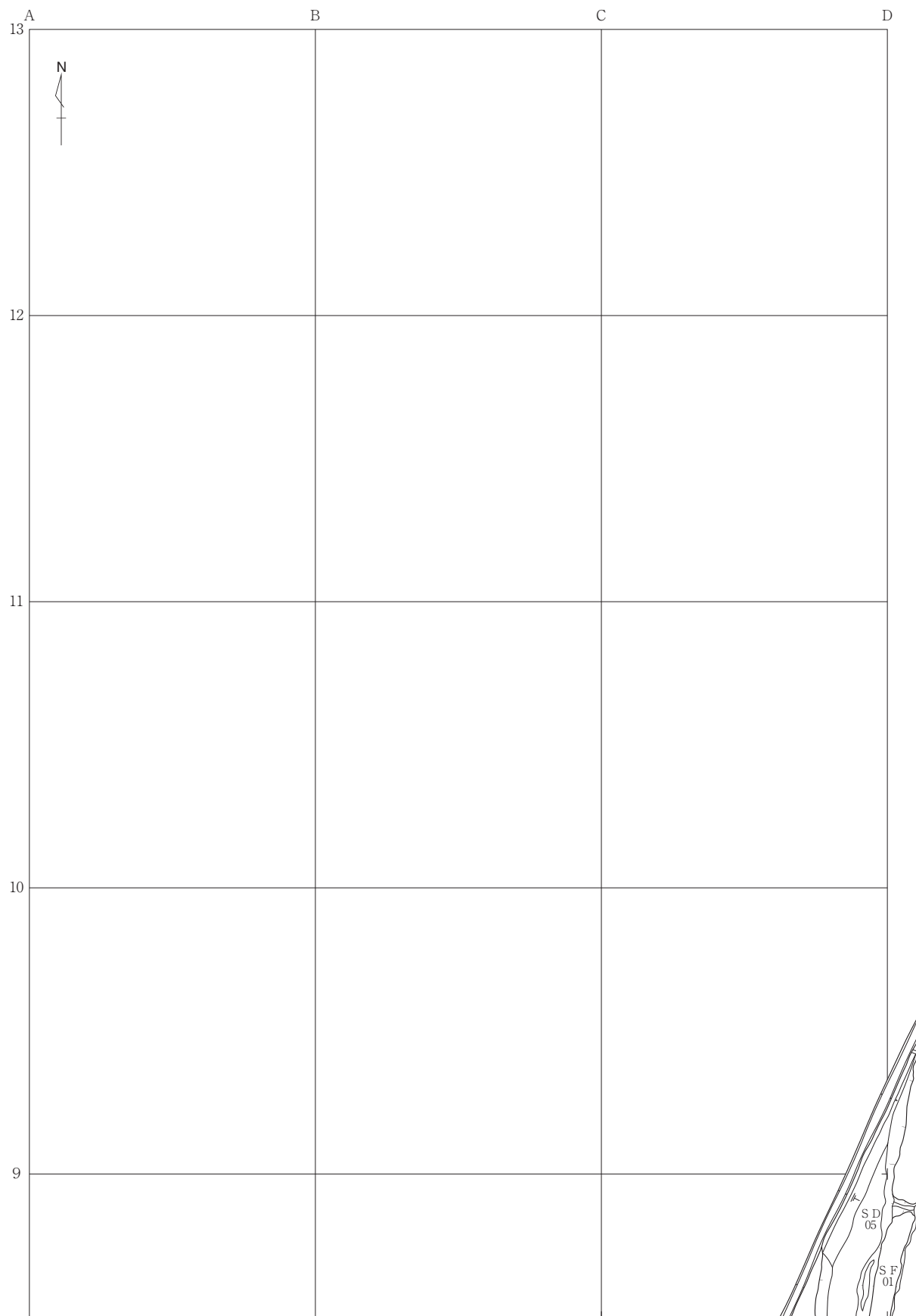




第11図 調査地区全体図〔1〕 (1/400)



第12図 調査地区全体図〔2〕 (1/400)



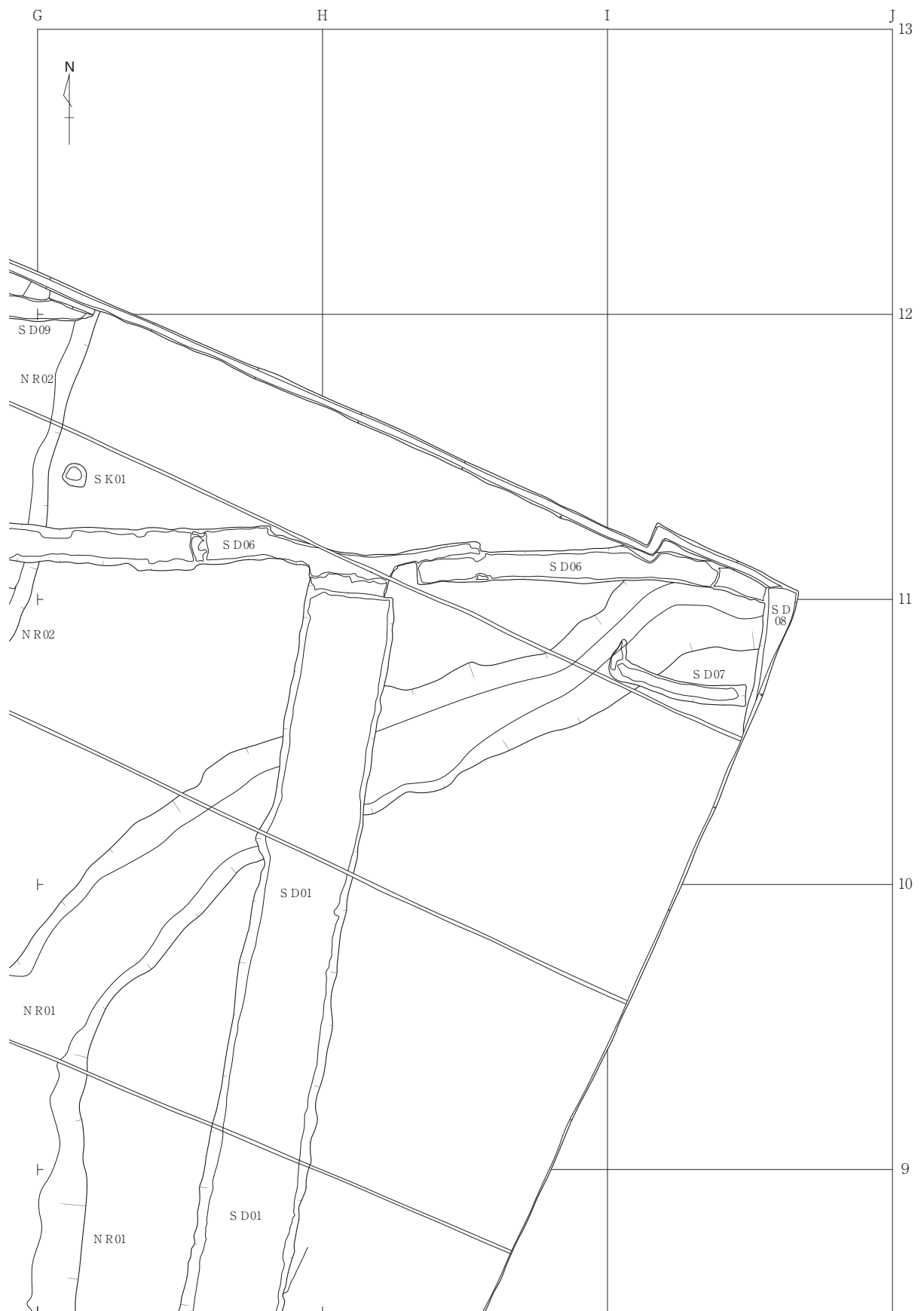
※ピット（SP）は番号のみ  
 第13図 遺構平面図〔1〕（1/200）



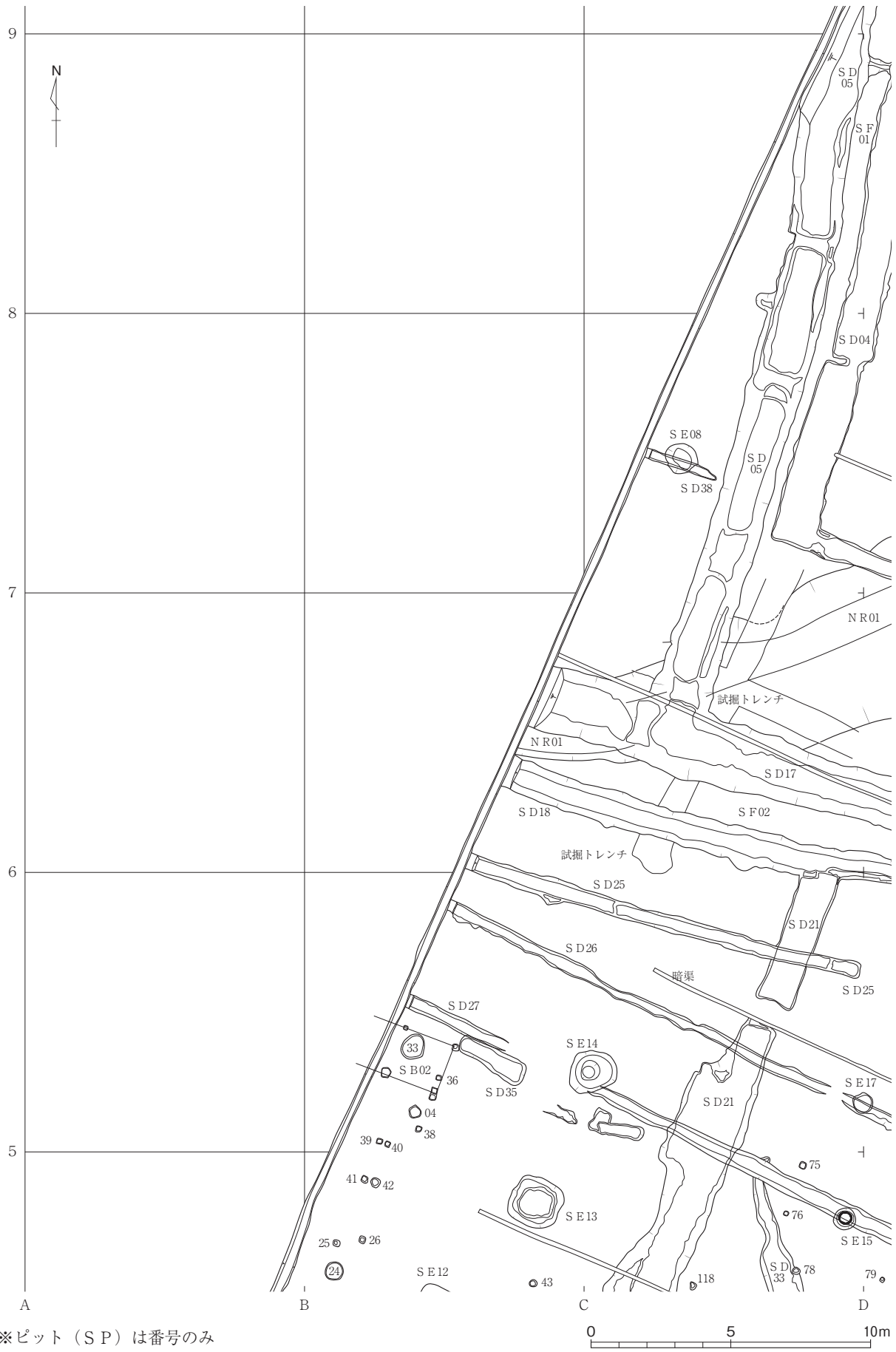


※ピット (SP) は番号のみ

第14図 遺構平面図〔2〕 (1/200)



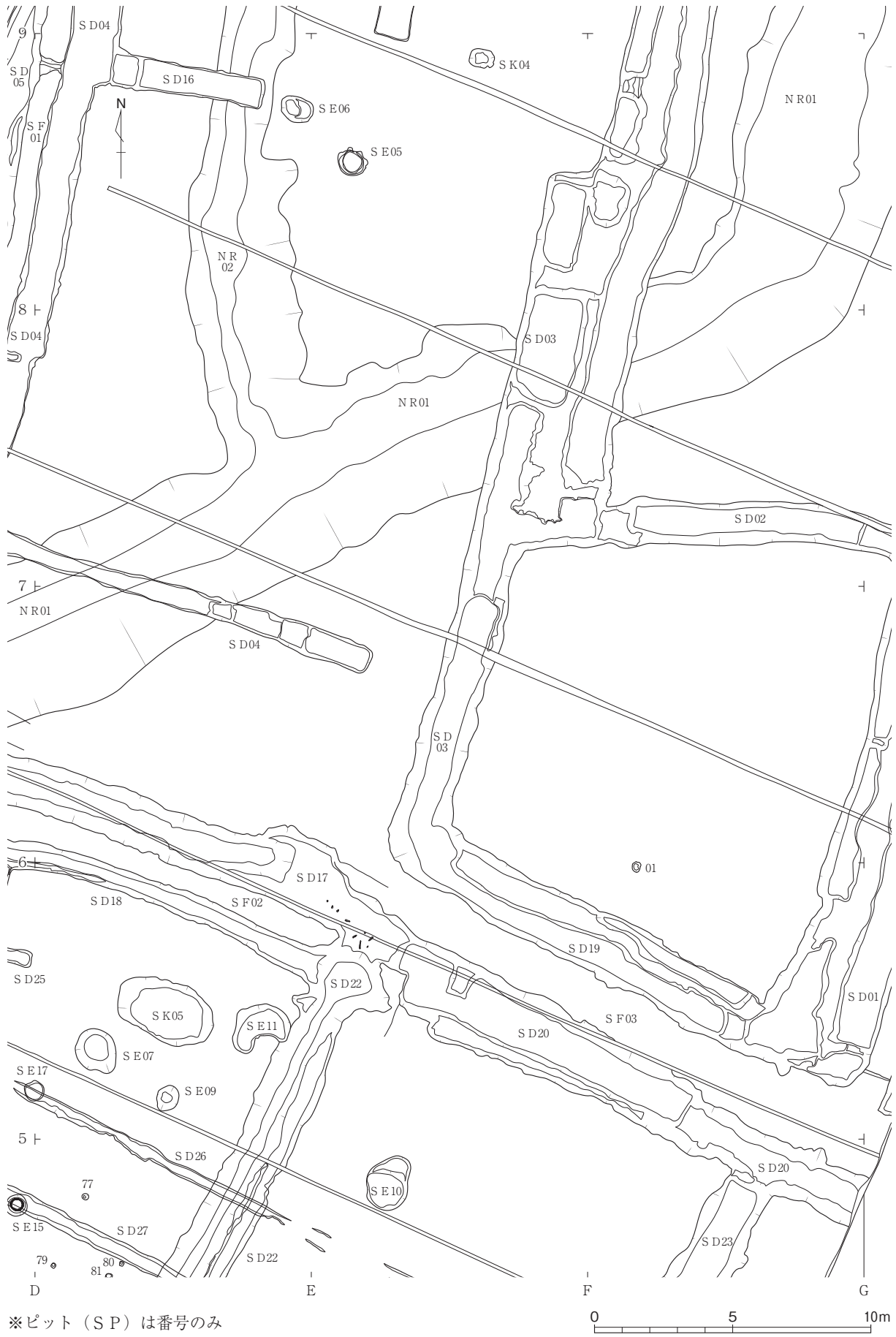
※ピット (SP) は番号のみ  
 第15図 遺構平面図〔3〕 (1/200)



※ピット (S P) は番号のみ

第16図 遺構平面図〔4〕 (1/200)



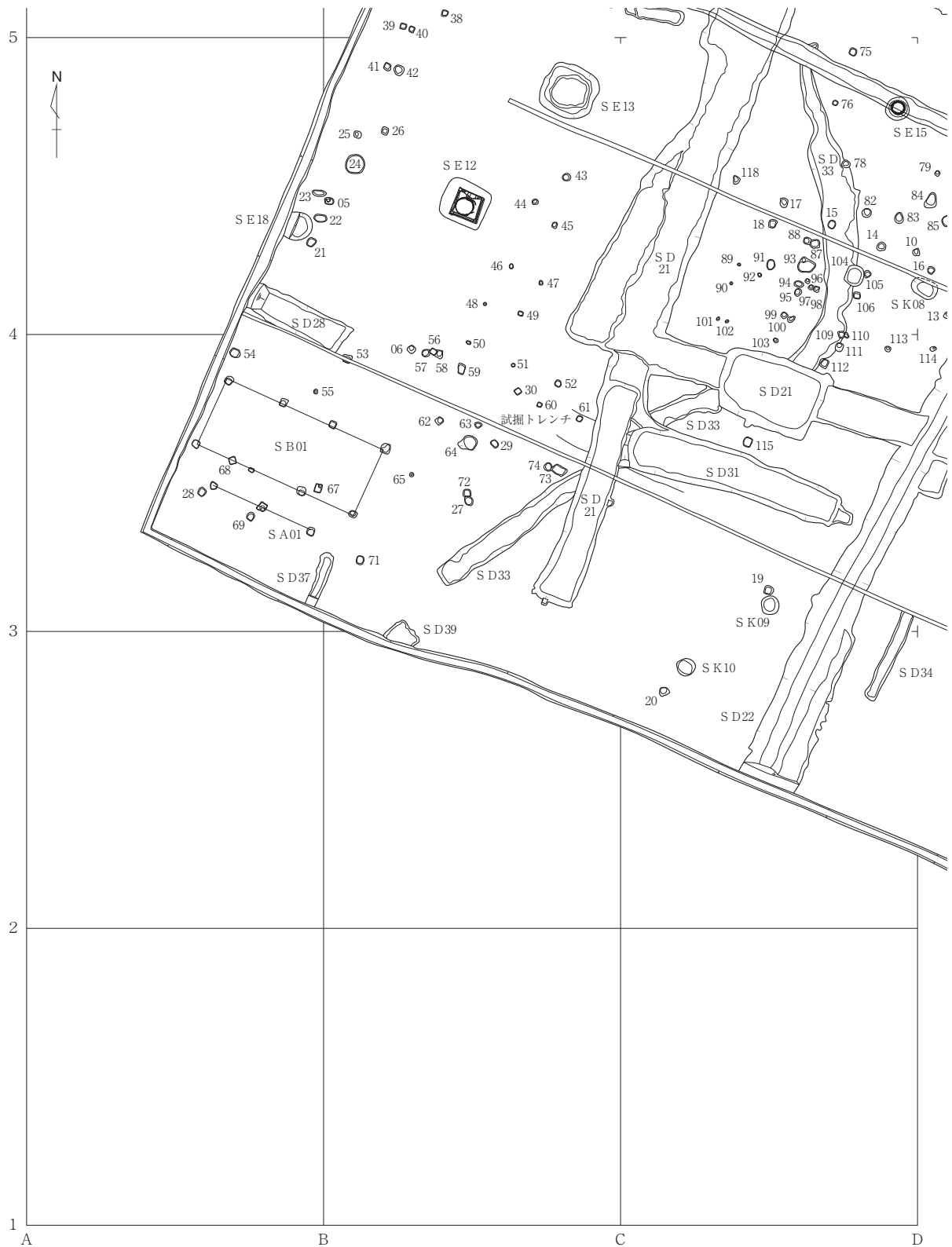


※ピット (SP) は番号のみ  
 第17図 遺構平面図 [5] (1/200)

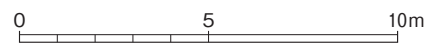


※ピット (SP) は番号のみ

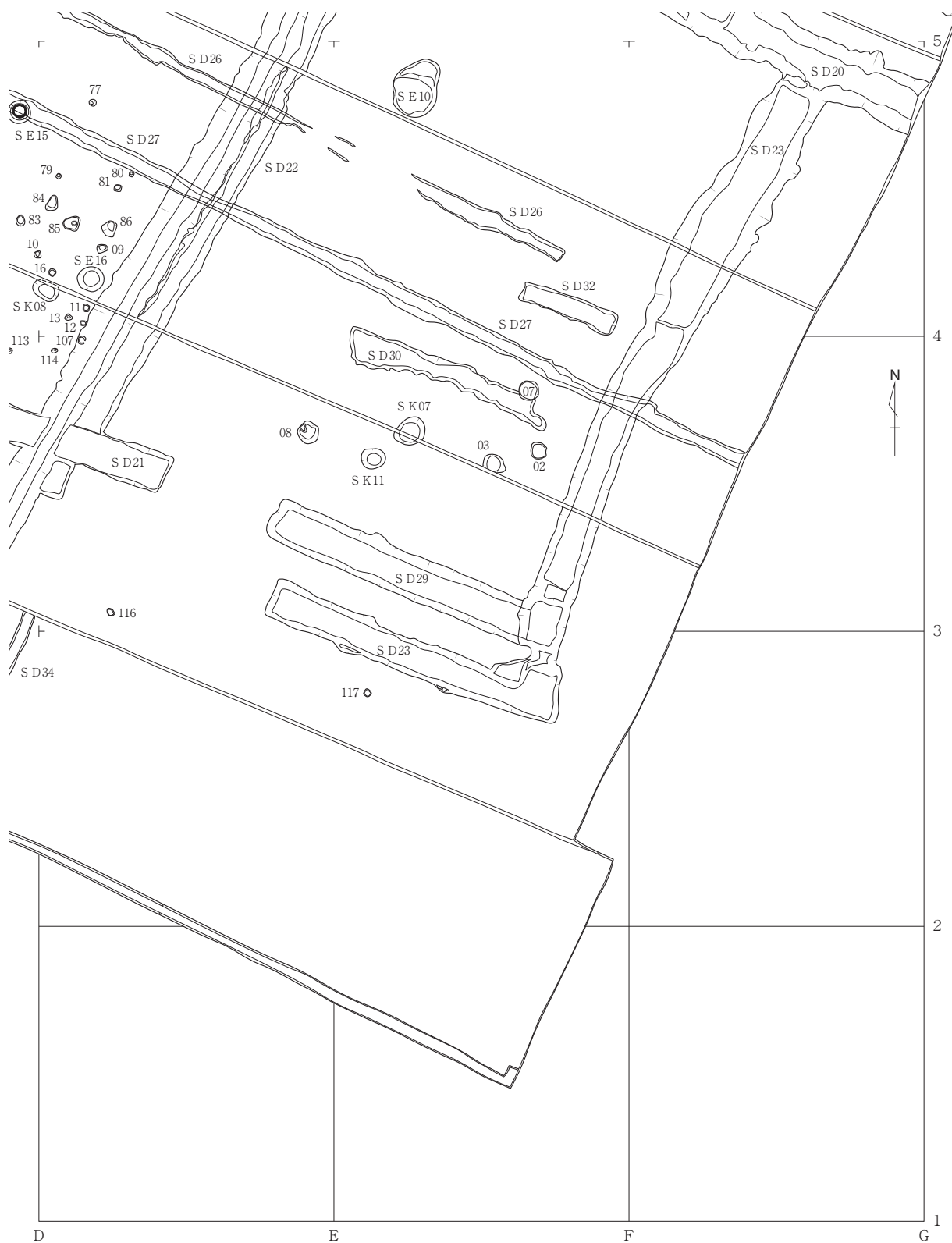
第18図 遺構平面図〔6〕 (1/200)



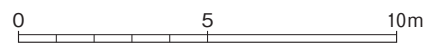
※ピット (SP) は番号のみ  
 第19図 遺構平面図〔7〕 (1/200)

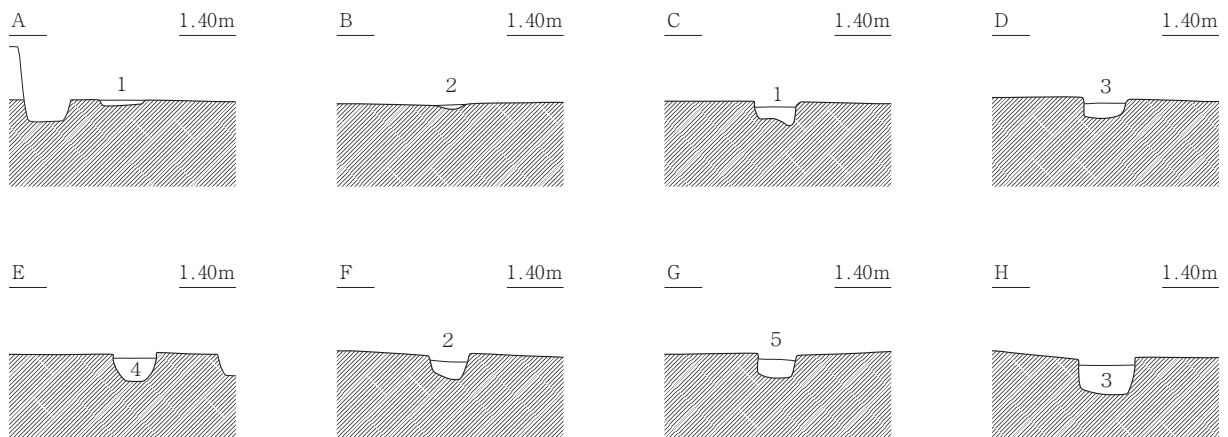
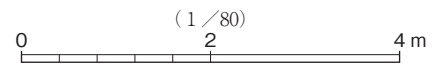
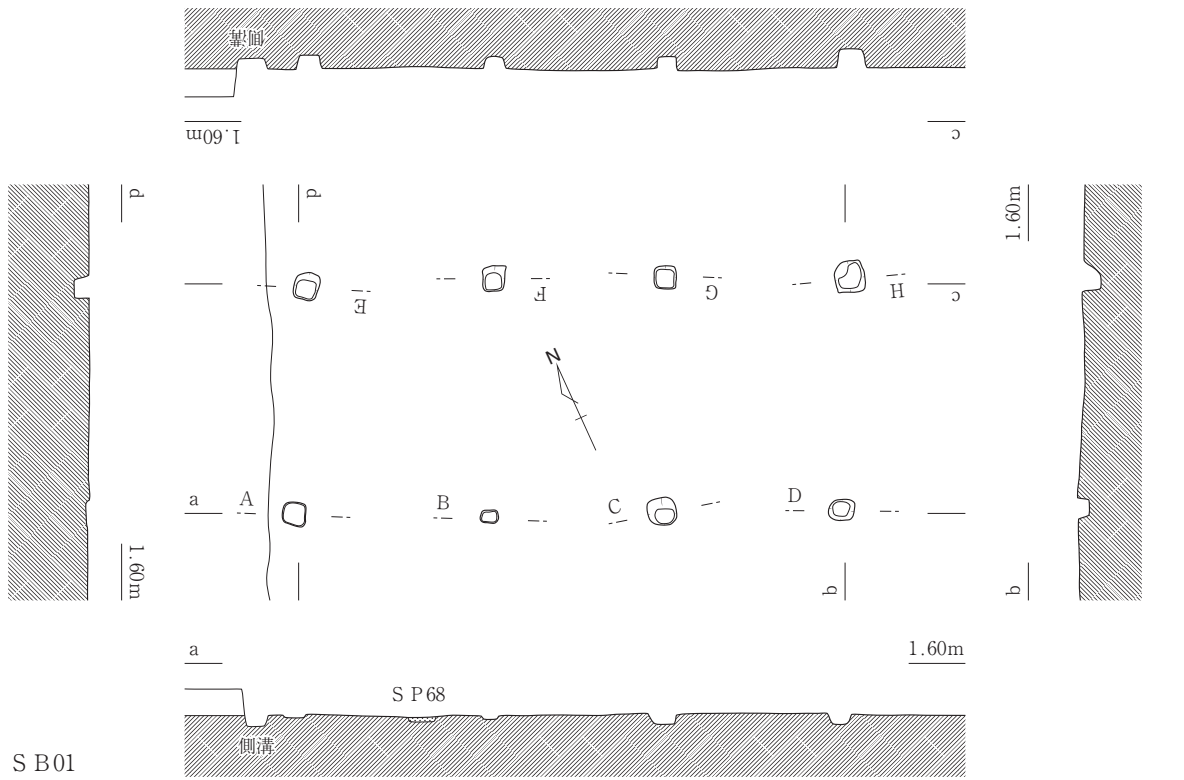




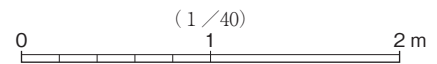


※ピット (SP) は番号のみ  
 第20図 遺構平面図〔8〕 (1/200)

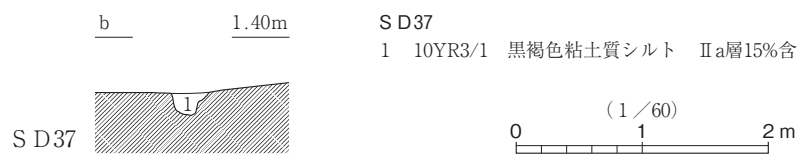
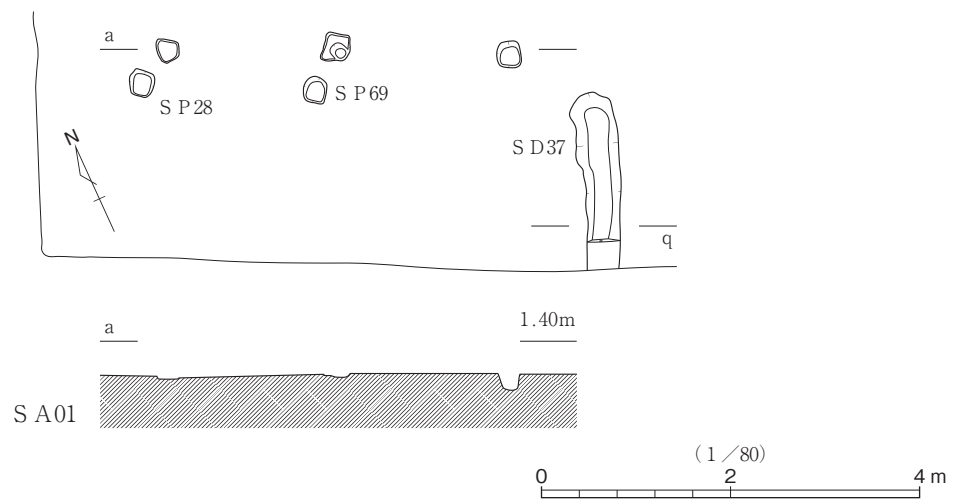
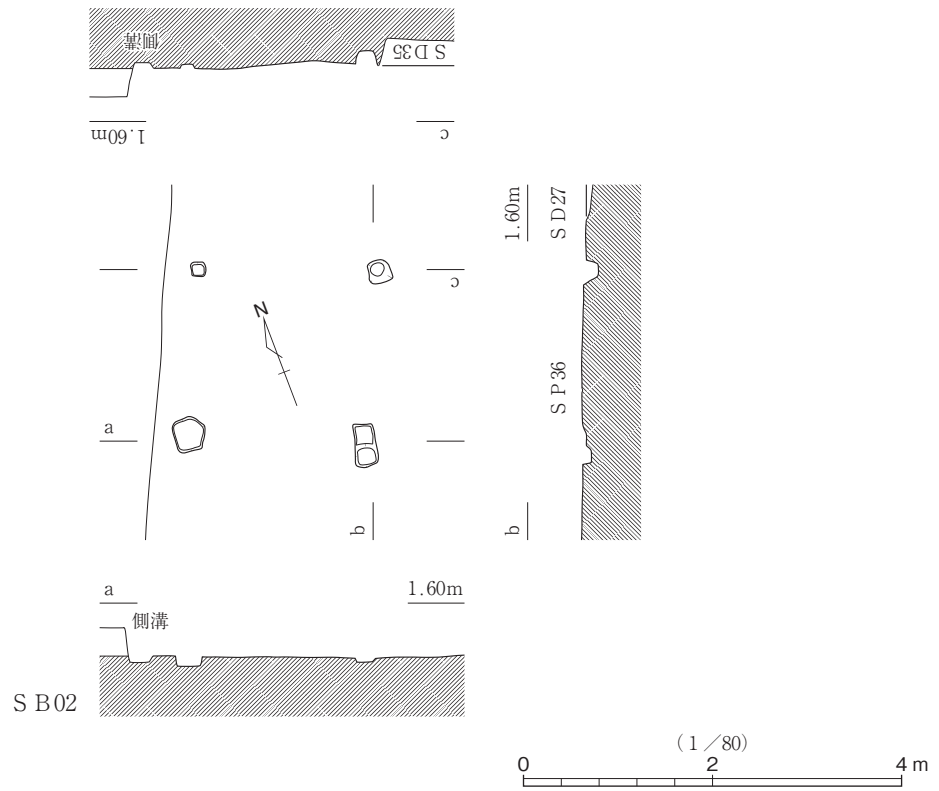




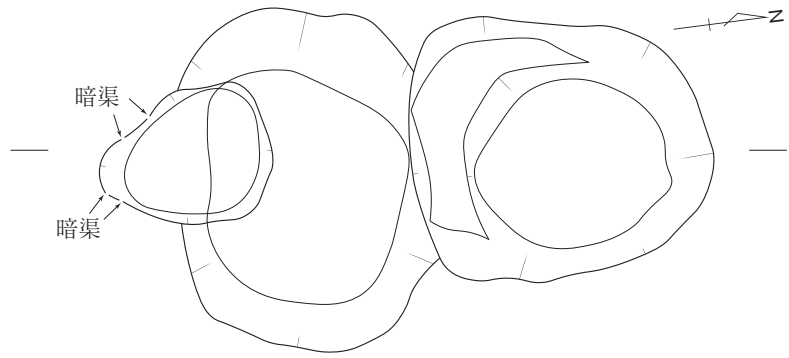
- 1 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層3%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層5%含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層15%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層30%含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層7%含む



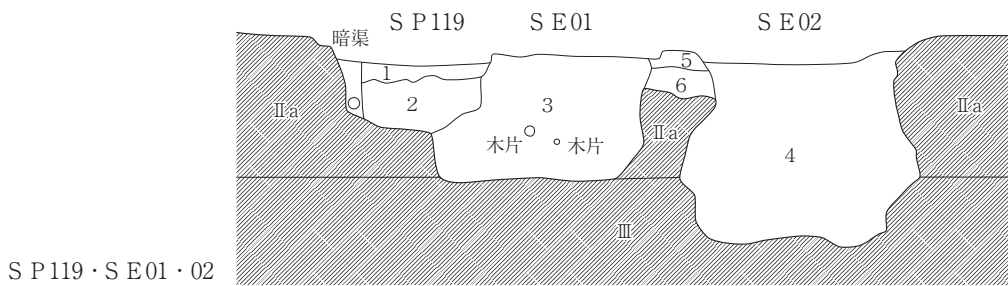
第21図 S B01実測図 (1/80・1/40)



第22図 S B02・S A01・S D37実測図 (1/80・1/60)



1.20m



SP119・SE01・02

**SP119**

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック3%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック50%含む

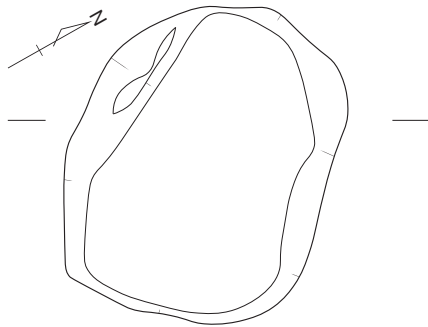
**SE01**

- 3 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック2%含む

**SE02**

- 4 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック40%含む
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト
- 6 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック3%含む

0 1 2 m

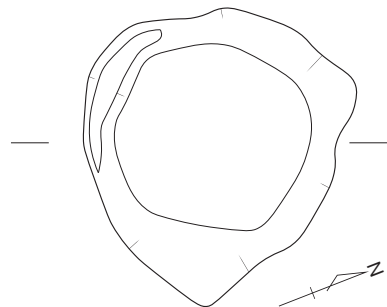


1.20m

SE03

**SE03**

- 1 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層ブロック10%含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト質粘土
- 3 10YR4/1 褐色細粒砂質シルト
- 4 10YR6/1 褐色シルト細粒砂



1.20m

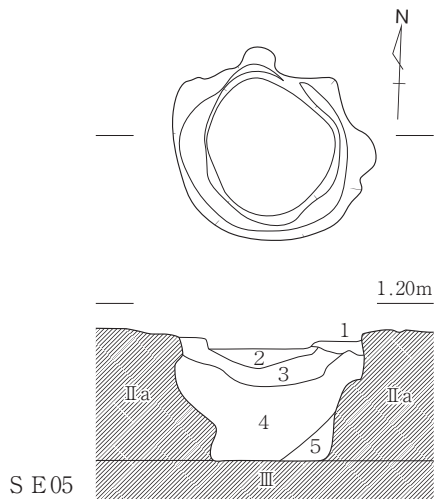
SE04

**SE04**

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック2%含む
- 2 10YR2/3 黒褐色細粒砂質シルト IIa層ブロック20%含む
- 3 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト IIa層ブロック10%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック2%含む

第23図 SE01~04実測図 (1/40)

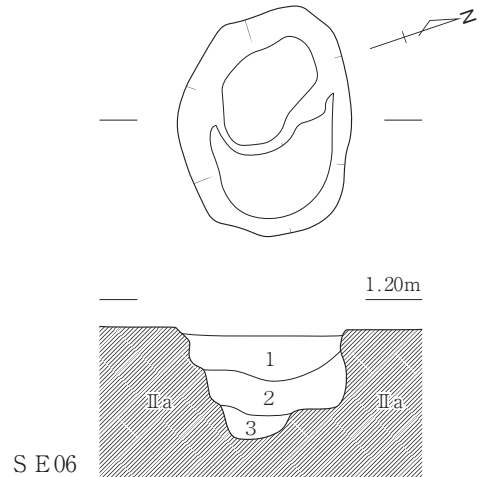




S E 05

S E 05

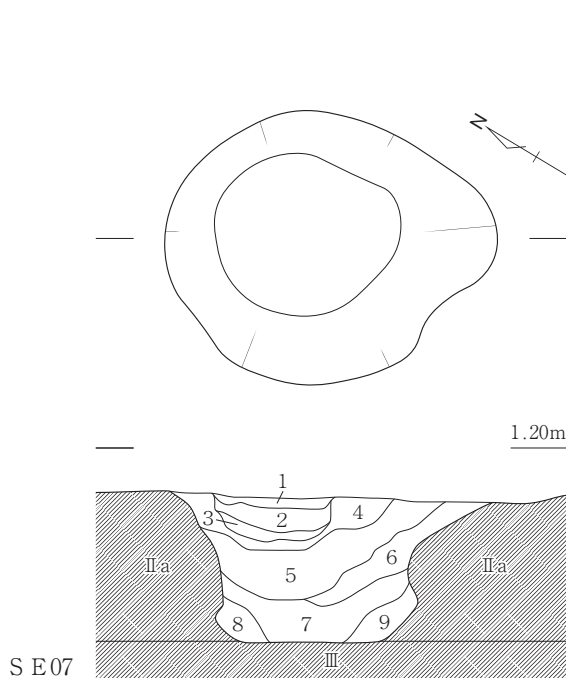
- 1 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト
- 2 2.5YR5/1 黄灰色粘土質シルト IIa層ブロック5%含む
- 3 2.5YR4/1 黄灰色粘土質シルト IIa層ブロック1%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト IIa層ブロック10%含む
- 5 10YR3/1 黒色粘土質シルト IIa層ブロック40%含む



S E 06

S E 06

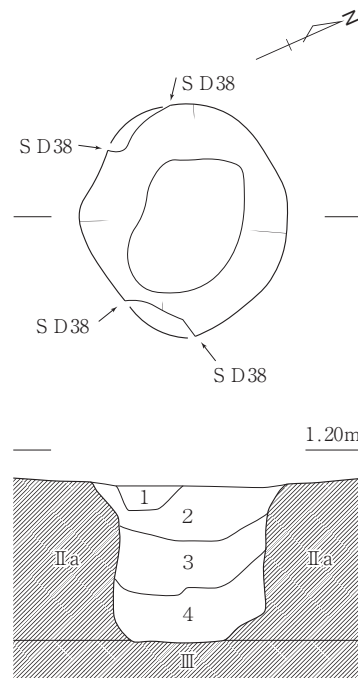
- 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック20%含む
- 2 IIa層に黒褐色シルト20%含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト粘土



S E 07

S E 07

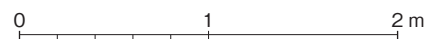
- 1 10YR4/1 褐灰色細粒砂質シルト IIa層1%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト IIa層1%未満、炭化物1%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 4 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト 炭化物1%含む
- 5 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト IIa層1%含む 炭化物1%含む
- 6 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層10%、炭化物1%含む
- 7 10YR2/1 黒色シルト質粘土 炭化物1%含む
- 8 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト
- 9 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト 炭化物1%含む



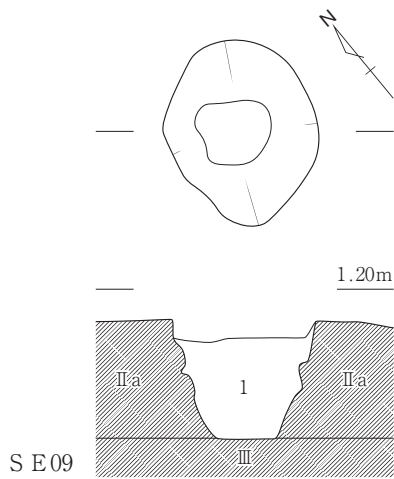
S E 08

S D 38

- 1 10YR3/2 黒褐色細粒砂質シルト (I層)
- S E 08
- 2 10YR3/1 黒褐色細粒砂質シルト IIa層1%、炭化物1%含む
  - 3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト IIa層2%、炭化物5%含む
  - 4 10YR5/1 褐灰色粘質シルト IIa層3%、炭化物3%含む



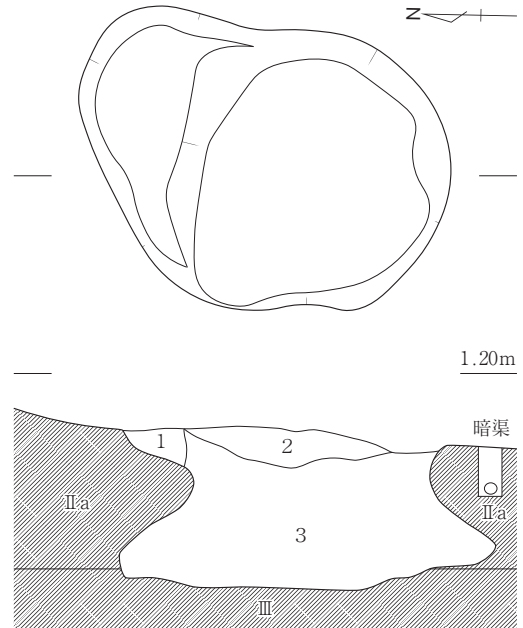
第24図 S E 05~08実測図 (1/40)



S E 09

S E 09

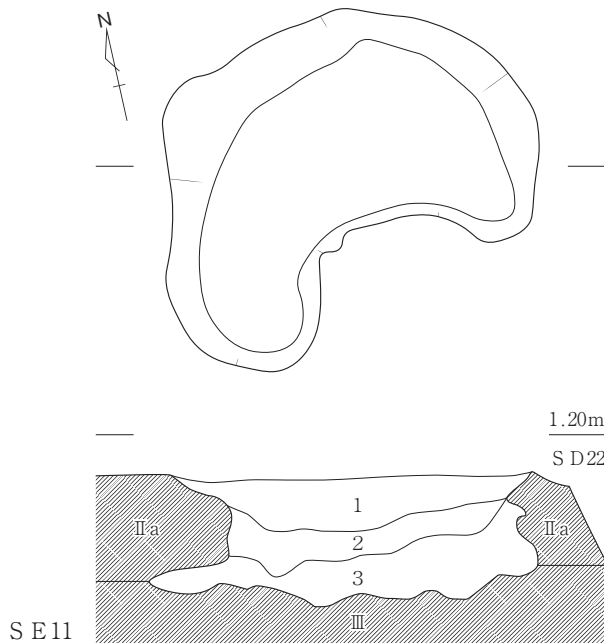
- 1 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト  
IIa層30%、炭化物2%含む



S E 10

S E 10

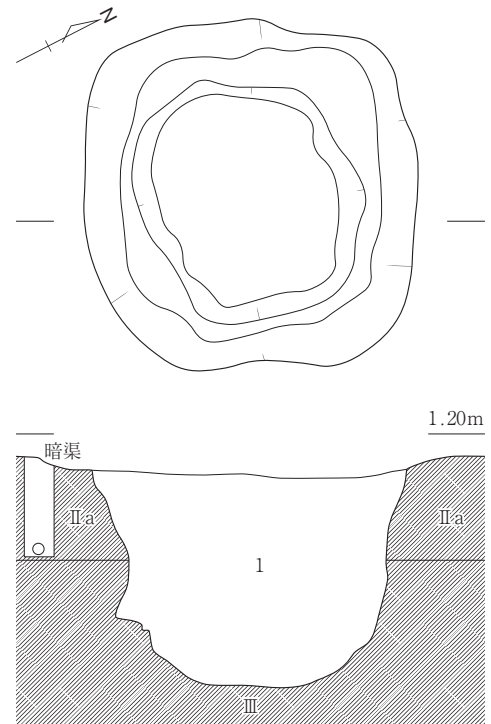
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト IIa層ブロック40%含む  
2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック30%含む  
3 10YR1.7/1 黒色粘土質シルト



S E 11

S E 11

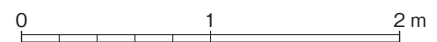
- 1 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト  
IIa層ブロック10%、黒褐色シルト2%含む  
2 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト IIa層ブロック50%含む  
3 10YR2/1 黒色粘土質シルト 褐灰色シルト10%含む



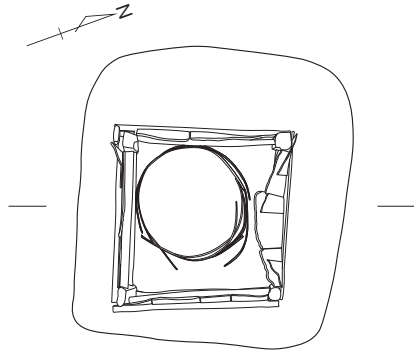
S E 13

S E 13

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層ブロック30%含む

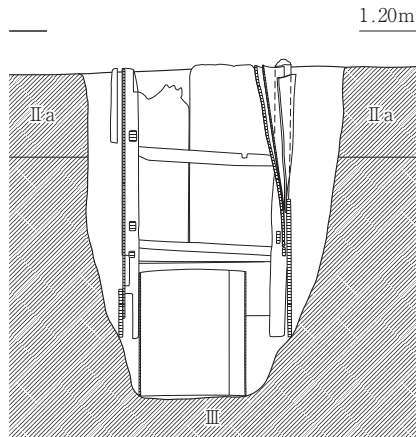
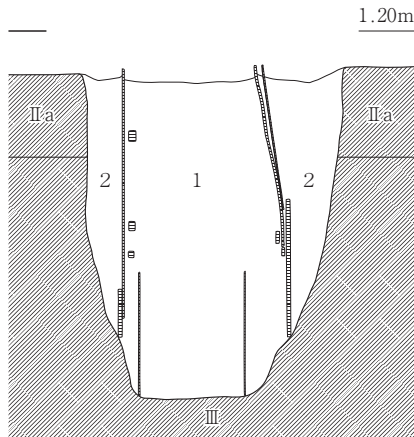


第25図 S E 09~11・13実測図 (1/40)

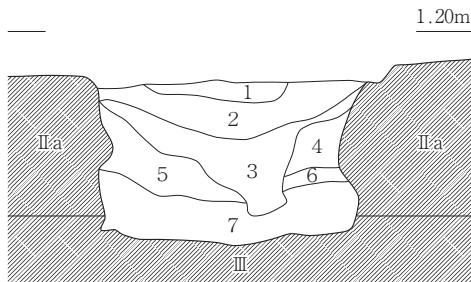
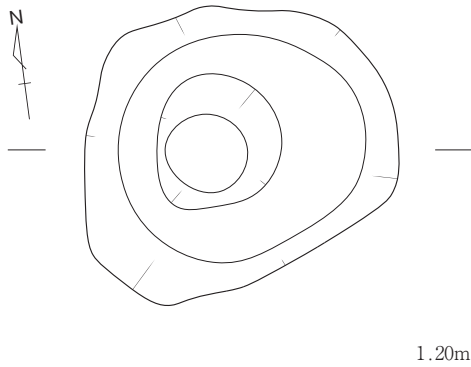


SE12

- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト IIa層を1%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト IIa層を5%含む



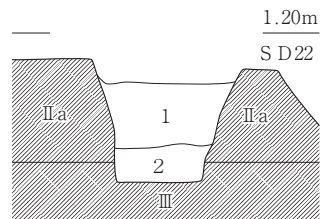
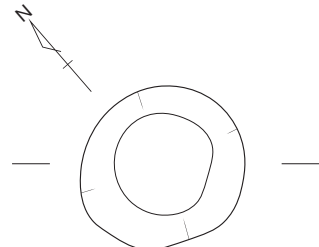
SE12



SE14

SE14

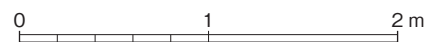
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層2%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層3%含む
- 3 10YR4/1 灰褐色シルト質粘土 IIa層2%含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト質粘土 IIa層5%含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層20%含む
- 6 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 IIa層20%含む
- 7 10YR5/1 褐灰色粘土質シルト



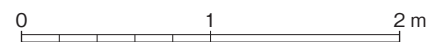
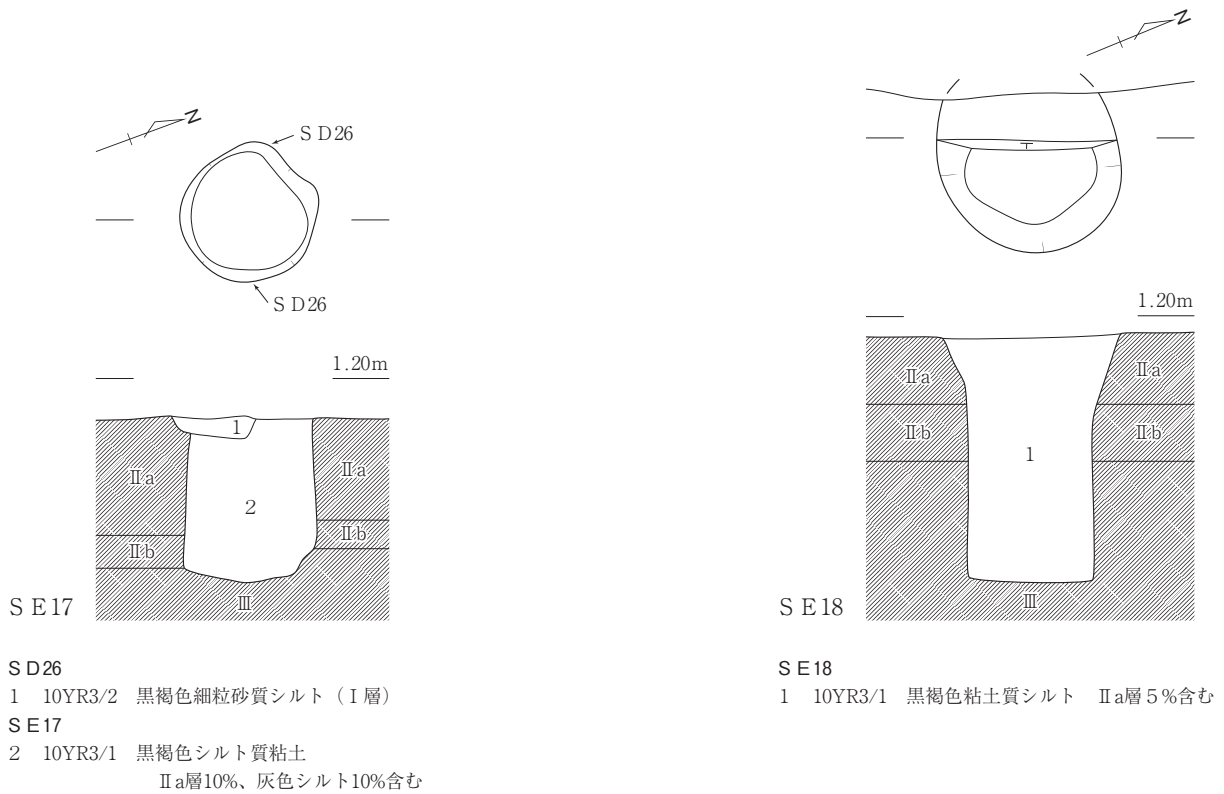
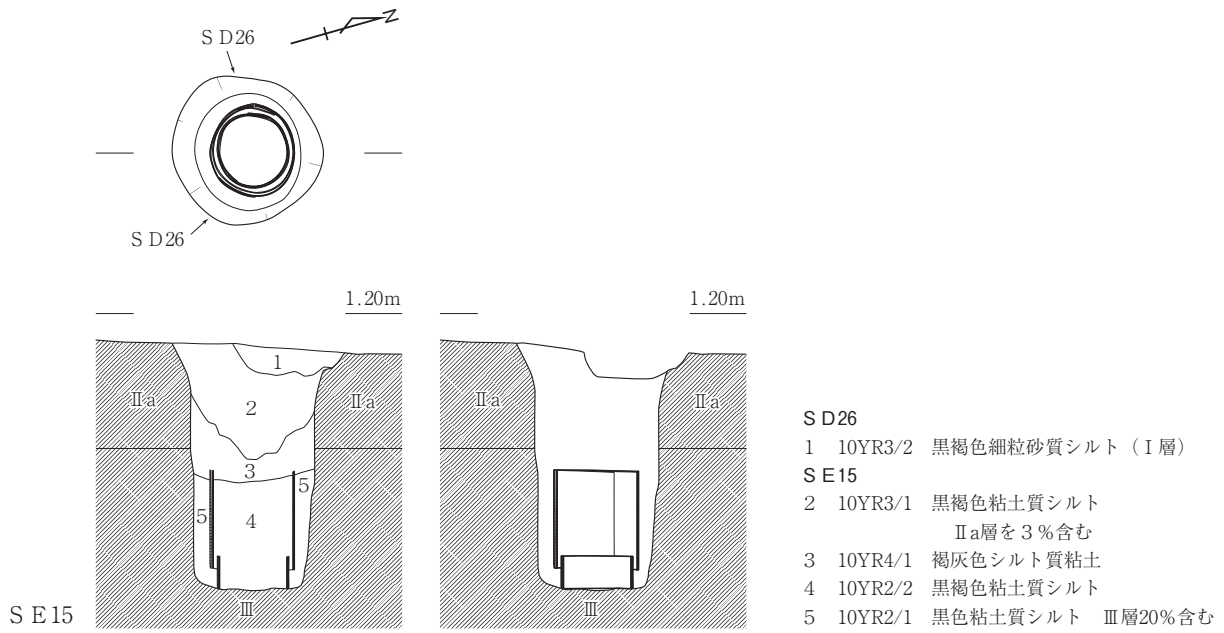
SE16

SE16

- 1 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層20%含む
- 2 IIa層に黒褐色シルト質粘土10%、灰褐色砂質粘土5%、灰色シルト質粘土2%含む

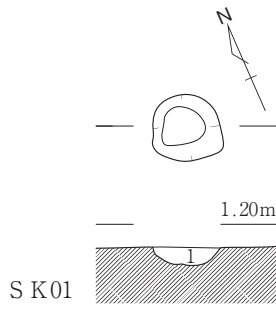


第26図 SE12・14・16実測図 (1/40)



第27図 S E 15・17・18実測図 (1/40)

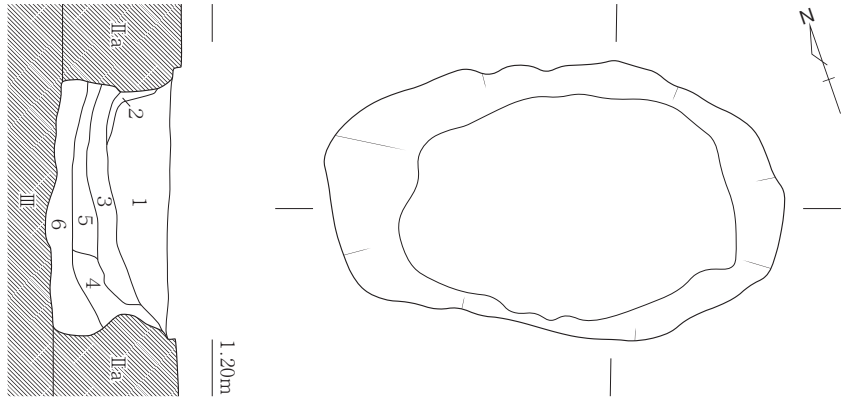




S K01

S K01

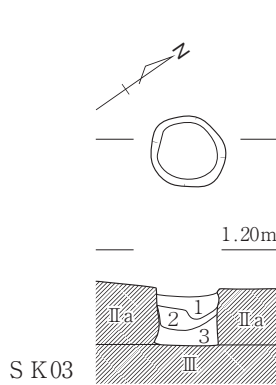
1 10YR1.7/1 黒色粘土質シルト



S K05

S K05

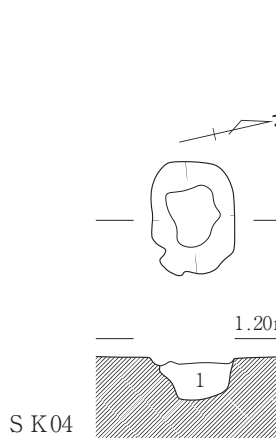
- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト
- 2 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 腐植物を含む
- 3 10YR1.7/1 黒色シルト質粘土
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 IIa層ブロック40%、黒色シルト5%含む
- 5 10YR2/1 黒色粘土 腐植物を含む
- 6 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック5%、III層ラミナ状2%含む



S K03

S K03

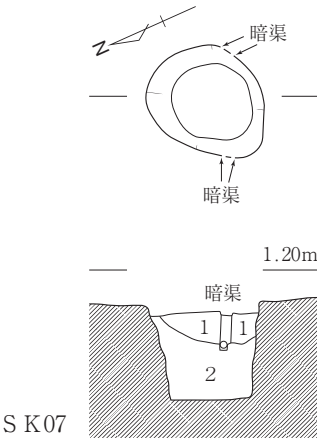
- 1 10YR2/2 黒色粘土質シルト
- 2 10YR3/3 黒色粘土質シルト  
IIa層ブロック5%含む
- 3 10YR1/2 黒色粘土質シルト



S K04

S K04

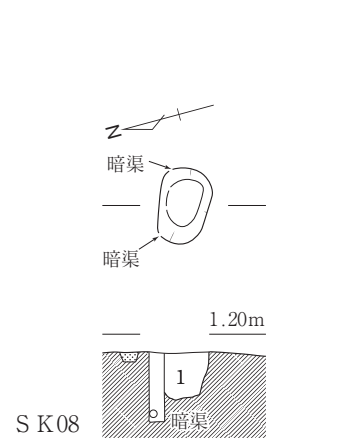
- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト  
IIa層ブロック40%含む



S K07

S K07

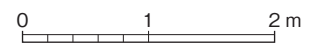
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土  
IIa層25%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト  
黒褐色シルト質粘土20%、IIa層3%含む



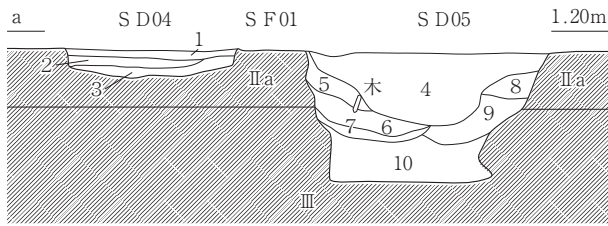
S K08

S K08

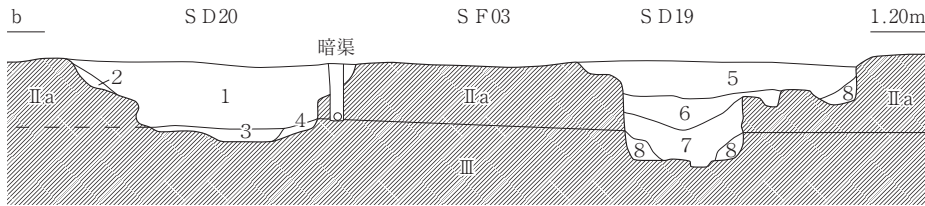
- 1 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト  
IIa層ブロック10%含む



第28図 S K01・03~05・07・08実測図 (1/60)

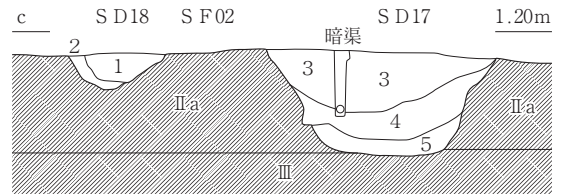
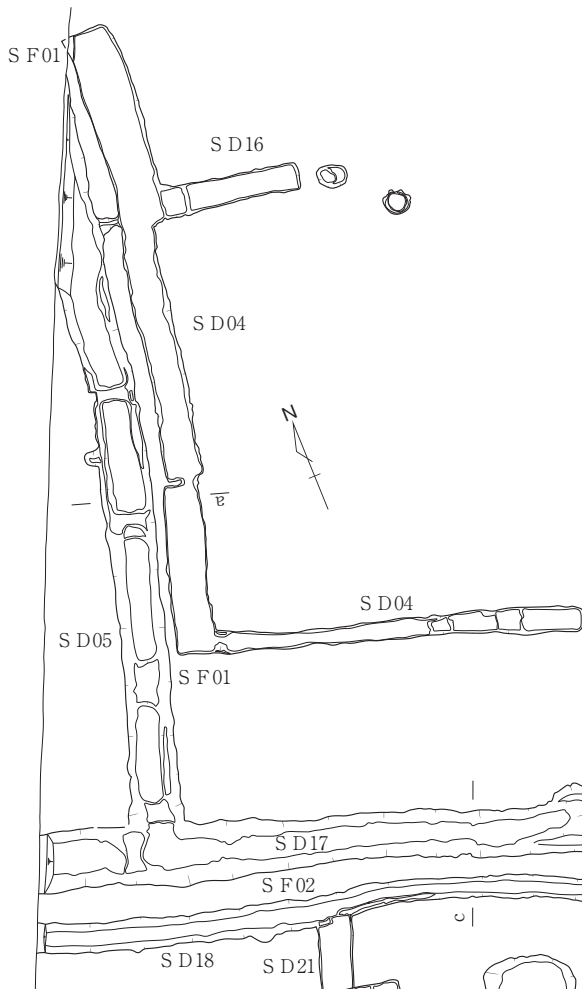


- SD04**
- 1 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂質シルト
  - 2 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト IIa層2%含む
  - 3 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト IIa層20%、IIb層10%含む
- SD05**
- 4 10YR2/1 黒色粘土質シルト
  - 5 10YR4/1 褐灰色細粒砂
  - 6 10YR2/1 黒色粘土
  - 7 10YR4/2 灰黄褐色中～細粒砂
  - 8 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ラミナ状10%含む
  - 9 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト III層20%含む
  - 10 10YR1.7/1 黒色シルト質粘土

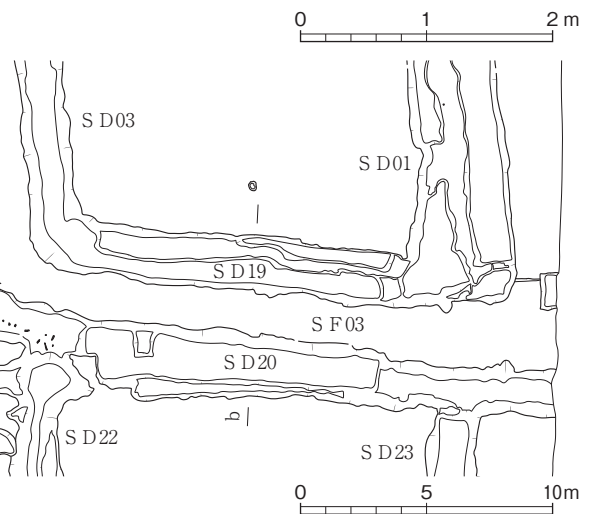


- SD20**
- 1 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック2%、炭化物1%含む
  - 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック20%含む
  - 3 10YR2/1 黒色粘土質シルト III層20%含む
  - 4 10YR1.7/1 黒色粘土質シルト III層ラミナ状20%含む

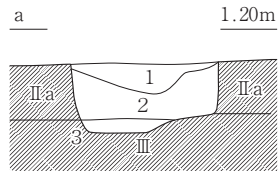
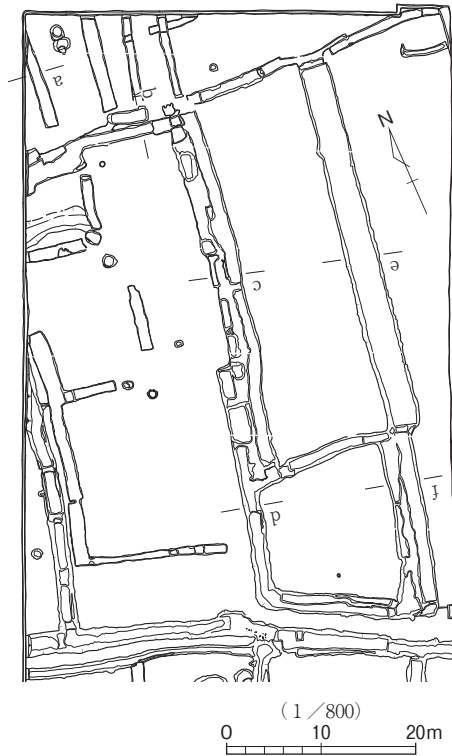
- SD19**
- 5 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック2%、炭化物1%含む
  - 6 10YR2/1 黒褐色細粒砂質シルト IIa層ブロック2%含む
  - 7 10YR2/1 黒色細粒砂質シルト IIa層ブロック1%含む
  - 8 10YR1.7/1 黒色粘土質シルト IIa層ブロック5%含む



- SD18**
- 1 10YR2/3 黒褐色粘質シルト IIa層2%、炭化物1%含む
  - 2 10YR2/2 黒褐色粘質シルト IIa層7%含む
- SD17**
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト IIa層3%、炭化物3%含む
  - 5 10YR2/2 黒褐色粘質シルト IIa層3%、炭化物7%含む
  - 6 10YR2/1 黒色粘質シルト IIa層10%、炭化物5%含む

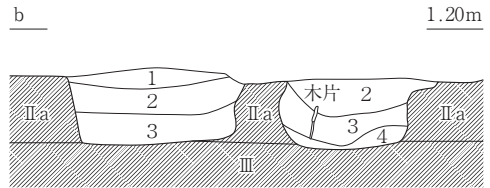


第29図 SF01～03実測図 (1/200・1/60)



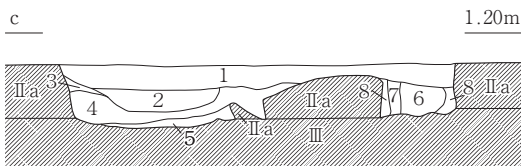
S D12

- 1 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック1%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック5%含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土



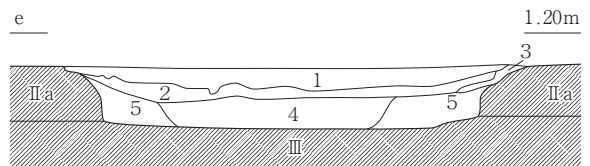
S D06

- 1 10YR2/2 黒褐色細粒砂質シルト IIa層ブロック3%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 3 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層2%、黄褐色細砂〜シルト2%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土



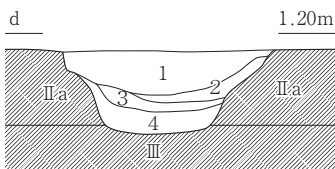
S D03

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロックを2%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト  
にふい黄褐色細粒砂をラミナ状に5%含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト  
IIa層ブロックを1%含む、炭化物を2%含む
- 5 10YR4/1 褐色粘土  
IIa層ブロックを5%含む、炭化物を2%含む
- 6 10YR1.7/1 黒色粘土
- 7 IIa層ブロック
- 8 10YR3/1 黒褐色粘土 IIa層ブロックを2%含む



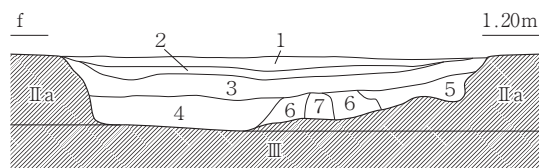
S D01

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック5%
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土 IIa層1%含む
- 4 10YR4/1 褐色粘土 IIa層ブロック3%、炭化物2%含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘土  
黒色シルト2%、IIa層2%、III層3%、炭化物1%含む



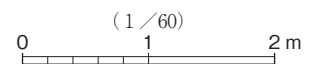
S D03

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト  
IIa層ブロック10%含む
- 3 10YR2/1 黒色シルト質粘土
- 4 10YR4/1 褐色粘土  
IIa層ブロック5%、炭化物2%含む



S D01

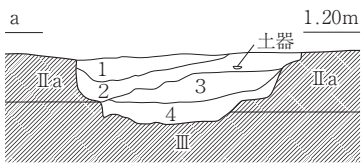
- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト
- 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIb層ブロック5%含む
- 3 10YR3/2 黒色シルト質粘土
- 4 10YR4/1 褐色粘土 IIa層ブロック3%、炭化物2%含む
- 5 10YR7/1 黒色シルト質粘土  
IIa層ブロック3%、IIb層ブロック3%、炭化物5%含む
- 6 10YR3/1 黒褐色粘土 IIa層ブロック10%、IIb層ブロック3%、炭化物3%含む
- 7 10YR3/2 黒褐色粘土  
IIa層ブロック2%、IIb層ブロック10%、炭化物3%含む



第30図 S D01・03・06・12実測図 (1/800・1/60)

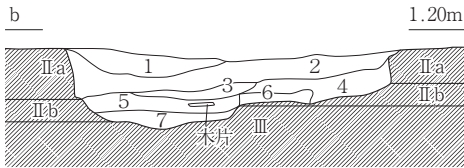


(1/800)  
0 10 20m



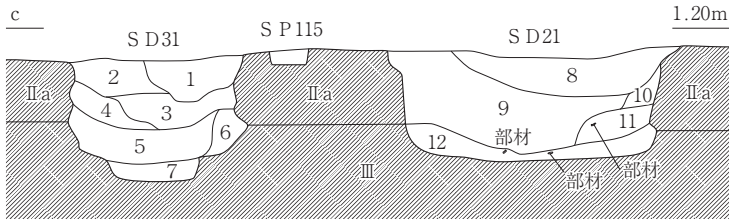
SD21

- 1 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層3%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層3%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層25%含む
- 4 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層15%、灰色粘土質シルト5%含む



SD21

- 1 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層2%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 IIa層1%含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 IIa層1%含む
- 4 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層3%含む
- 5 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 IIa層5%含む
- 6 IIa層 黒褐色シルト質粘土5%含む
- 7 10YR2/1 黒色シルト質粘土  
IIa層25%、III層3%、灰黄褐色シルト質粘土3%含む



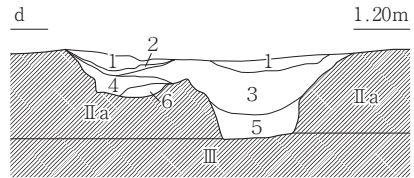
SD31

- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト IIa層ブロック2%含む
- 2 10YR4/1 褐灰色粘土質シルト IIa層ブロック2%含む
- 3 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック1%含む
- 4 10YR2/1 黒色粘土質シルト
- 5 10YR2/1 黒色シルト質粘土 IIa層ブロック1%含む
- 6 10YR2/1 黒色シルト質粘土 III層ラミナ状20%含む
- 7 10YR7/1 黒色シルト質粘土 IIa層10%含む

SD21

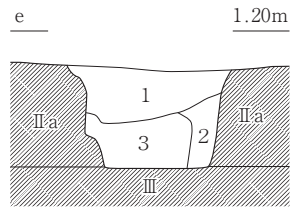
- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト IIa層ブロック10%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック30%含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック2%含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層ブロック10%含む
- 5 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 III層2%含む

(1/60)  
0 1 2m



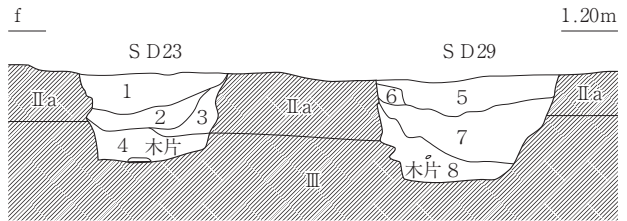
SD22

- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層2%含む
- 2 10YR4/2 灰褐色粘土質シルト
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層1%含む
- 4 10YR3/1 黒褐色砂質シルト IIa層3%含む
- 5 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層15%含む
- 6 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト IIa層50%含む



SD23

- 1 10YR2/1 黒色粘土質シルト IIa層3%、炭化物2%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層50%ラミナ状、炭化物1%含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト IIa層10%、炭化物5%含む



SD23

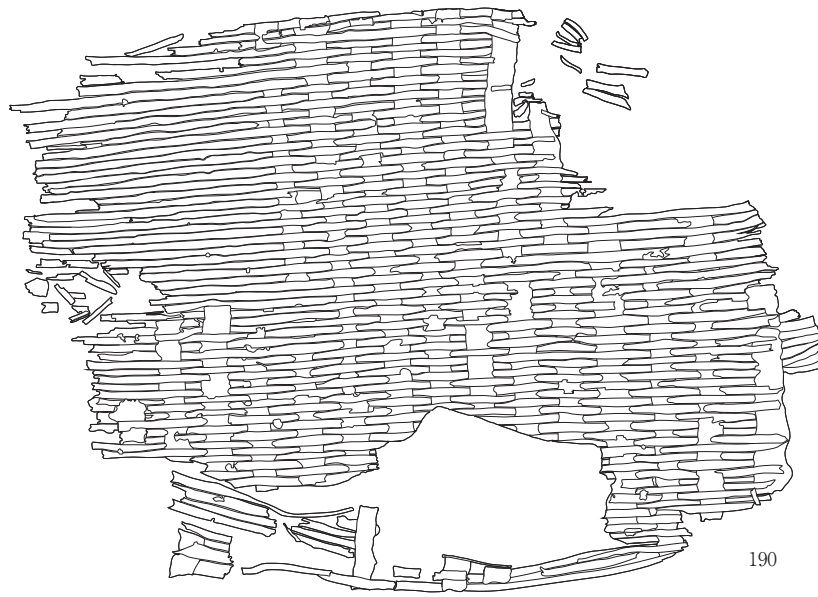
- 1 10YR2/2 黒褐色粘土質シルト IIa層10%含む
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 3 10YR2/1 黒色粘土質シルト IIa層ラミナ状2%含む
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土 IIa層1%含む

SD29

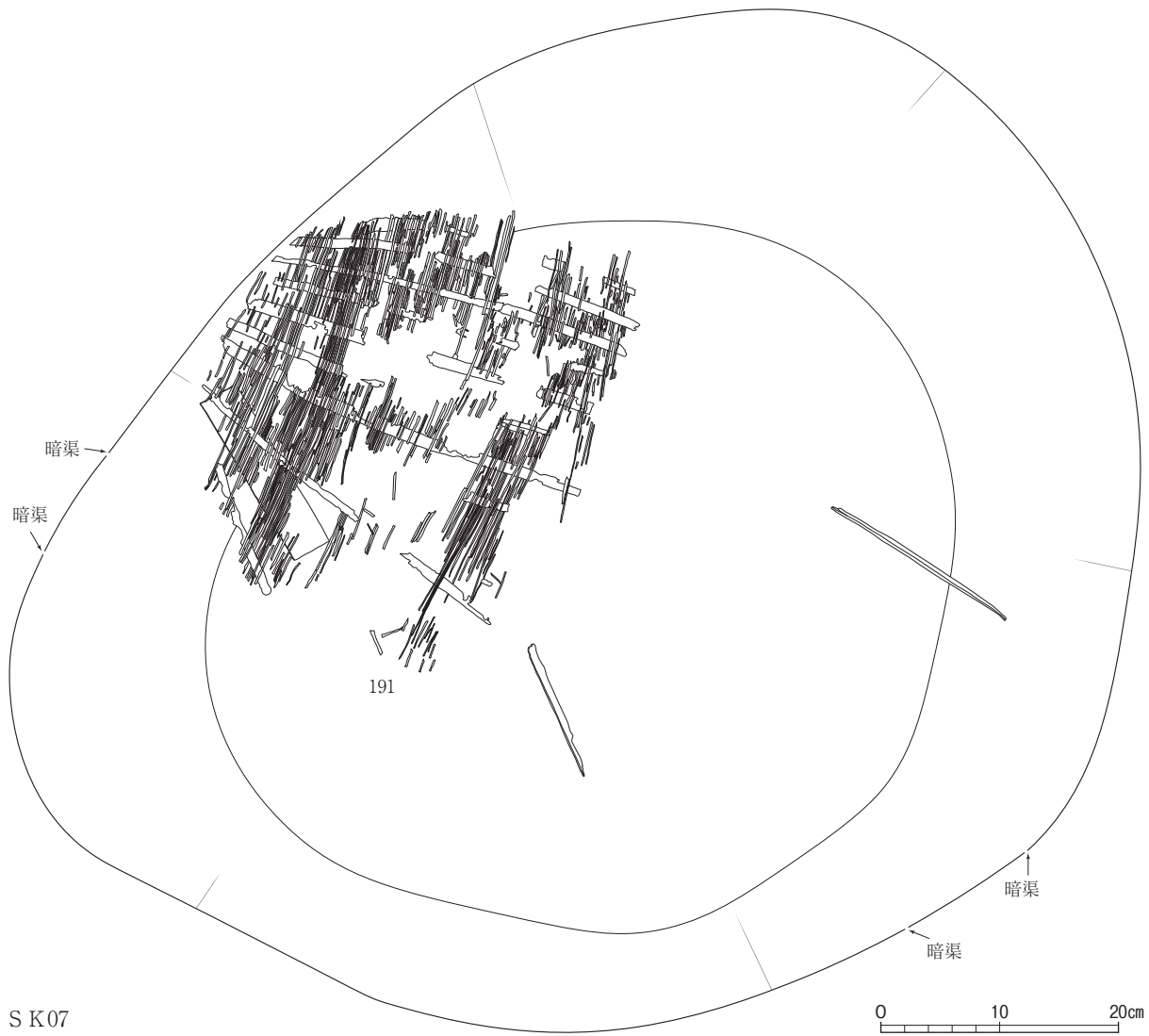
- 1 IIa層ブロック 褐灰色シルト5%含む
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト質粘土 IIa層ブロック10%含む
- 3 10YR2/1 黒色粘土質シルト 褐灰色粘土ブロック20%含む
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 III層ラミナ状2%含む

第31図 S D21~23・29・31実測図 (1/800・1/60)



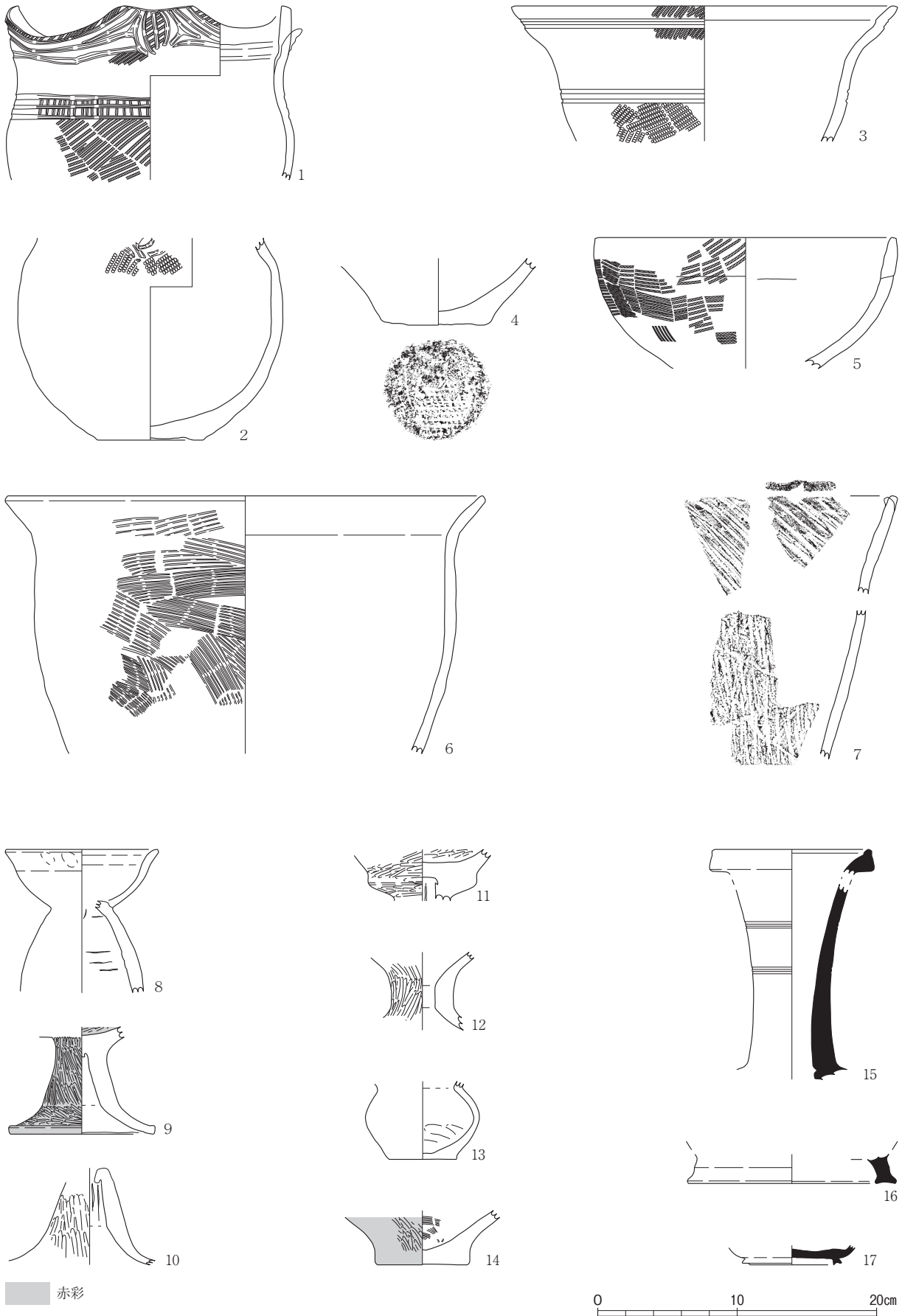


S D05



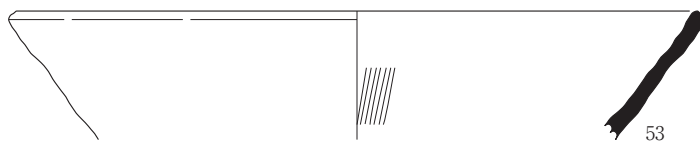
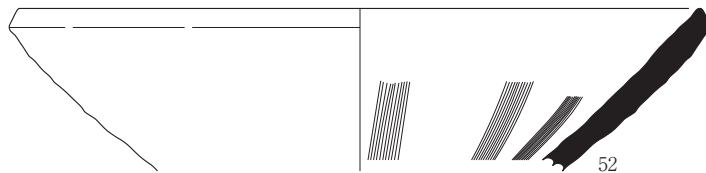
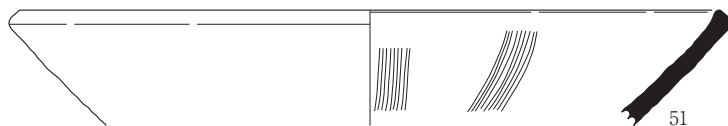
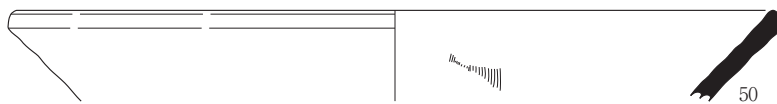
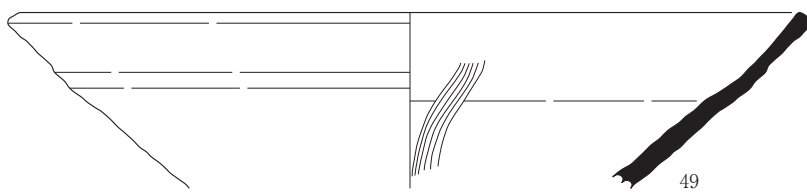
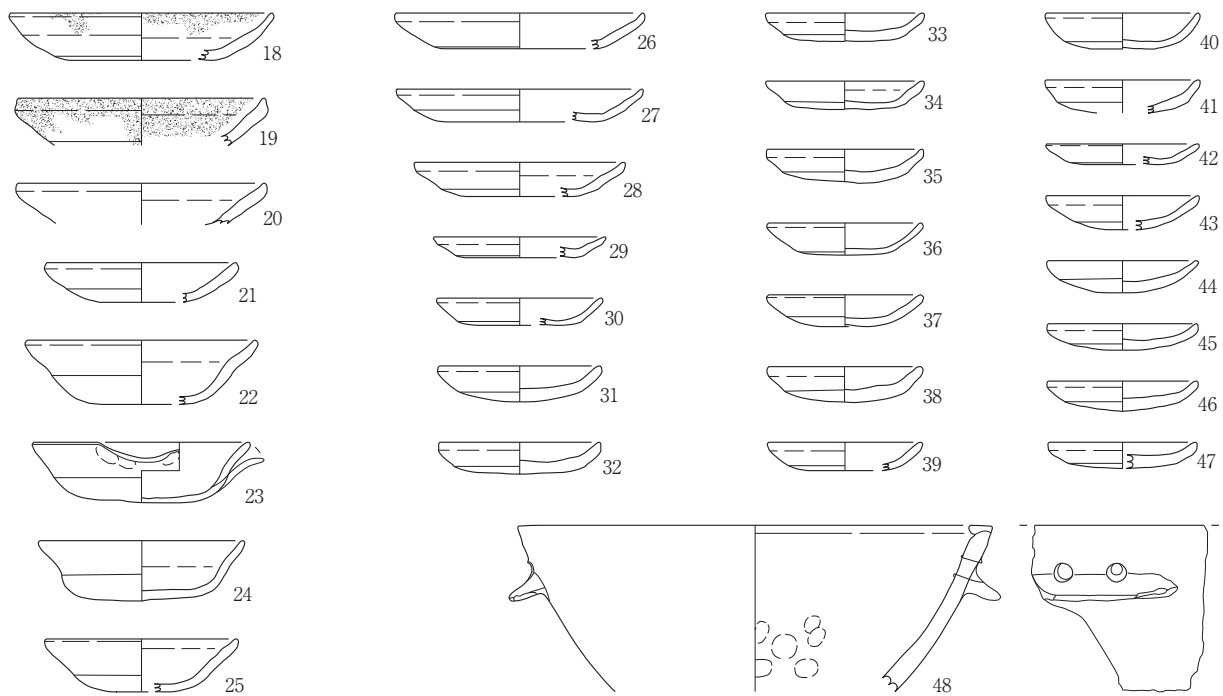
S K07

第32図 編物出土状況図 (1 / 6)



第33図 遺物実測図〔1〕 (1/4)

SK08 (13)、SD01 (7)、SD03 (15)、SD05 (15)、SD06 (17)、SD17 (10・14)、SD20 (12)  
SD21 (8・16)、SD39 (9)、NR01 (1~6・11)

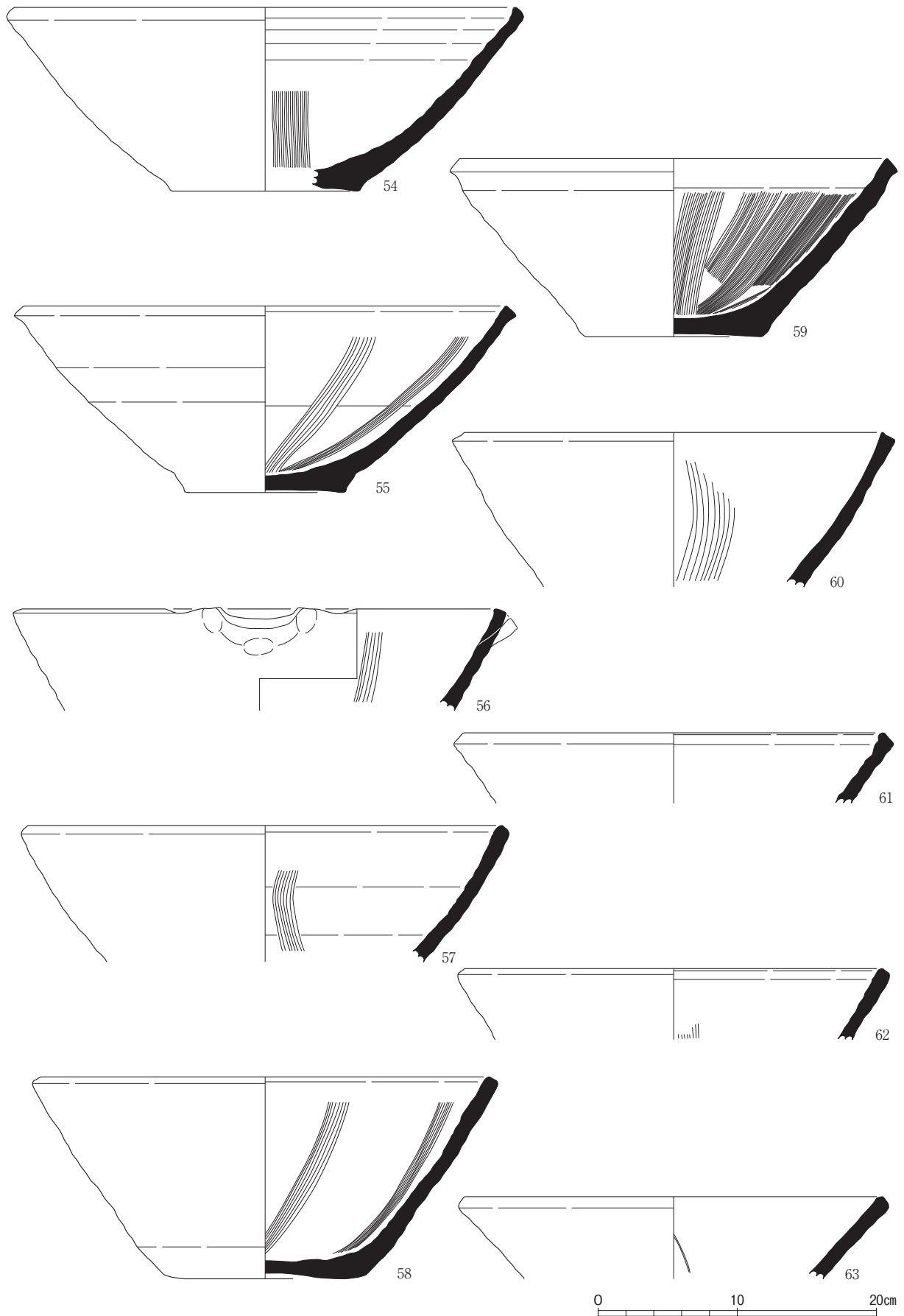


 油煙

0 10 20cm

第34図 遺物実測図〔2〕 (1/4)

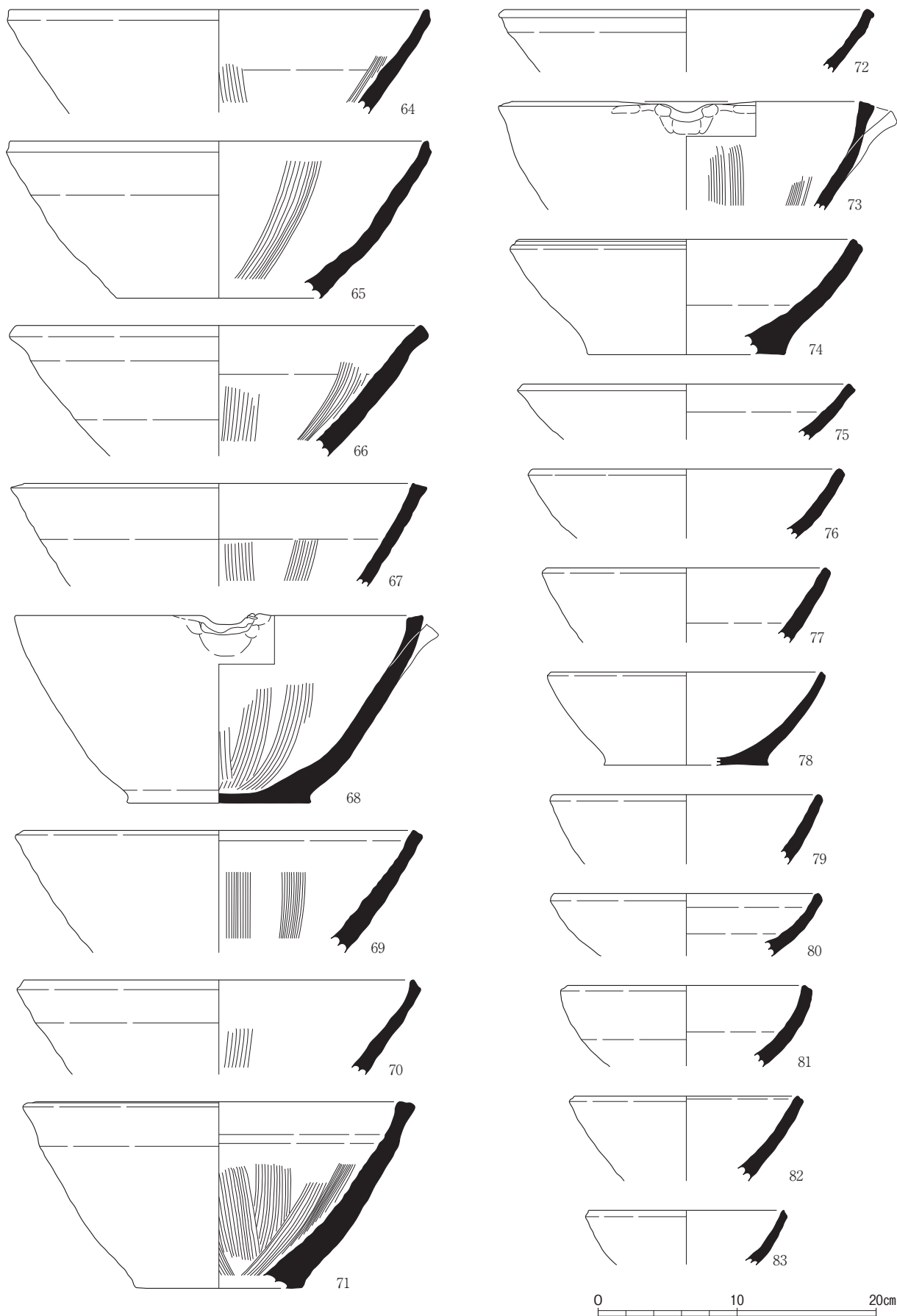
SE12 (22)、SD03 (35・41)、SD04 (26・51)、SD05 (33)、SD06 (34・44・48)、SD17 (33・35・49)  
 SD18 (39)、SD20 (24・28)、SD21 (29・38・43・45・52)、SD22 (23・30・36・40)  
 SD23 (18・19・21・27・37・53)、SD28 (20)、NR01 (32・47)、第II層上面 (25・31・42・46・50)



第35図 遺物実測図〔3〕 (1/4)

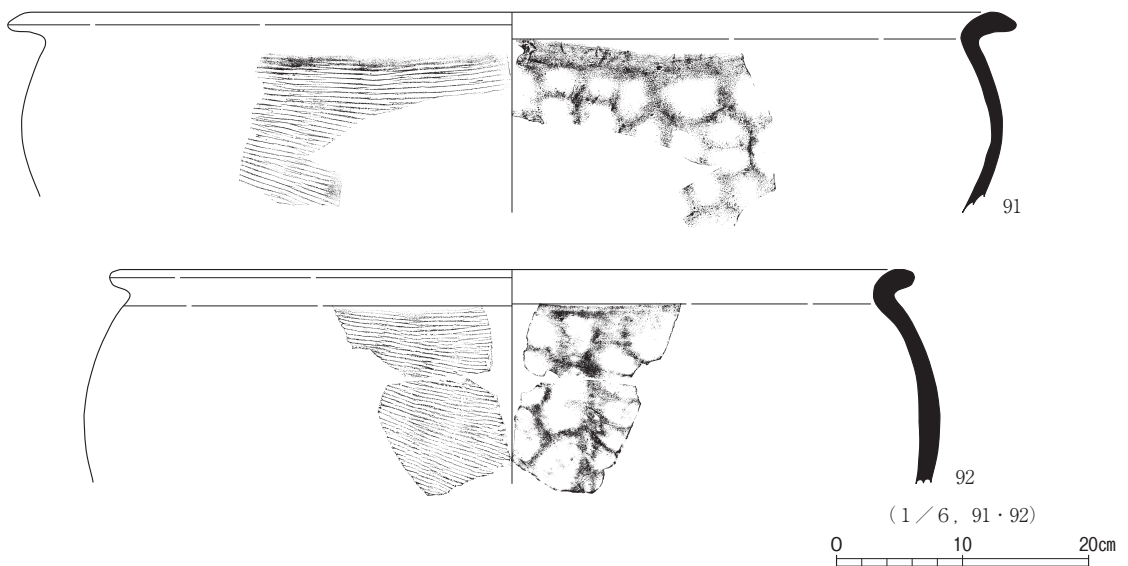
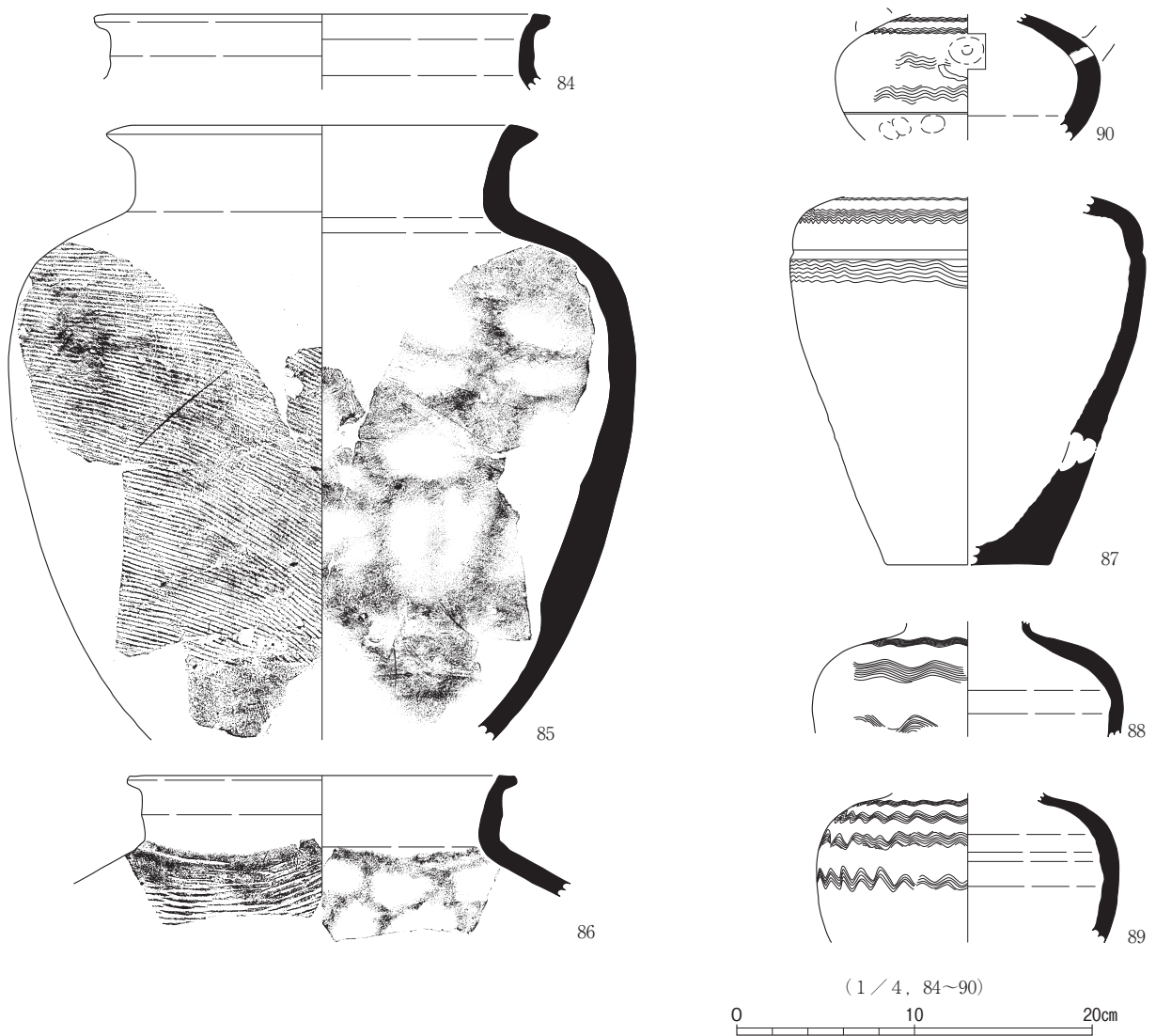
SD06 (60)、SD12 (63)、SD17 (56・58・62)、SD19 (55・58)、SD20 (55・61)、SD23 (57・58)  
 SD27 (54)、SD29 (59)、SD31 (54)





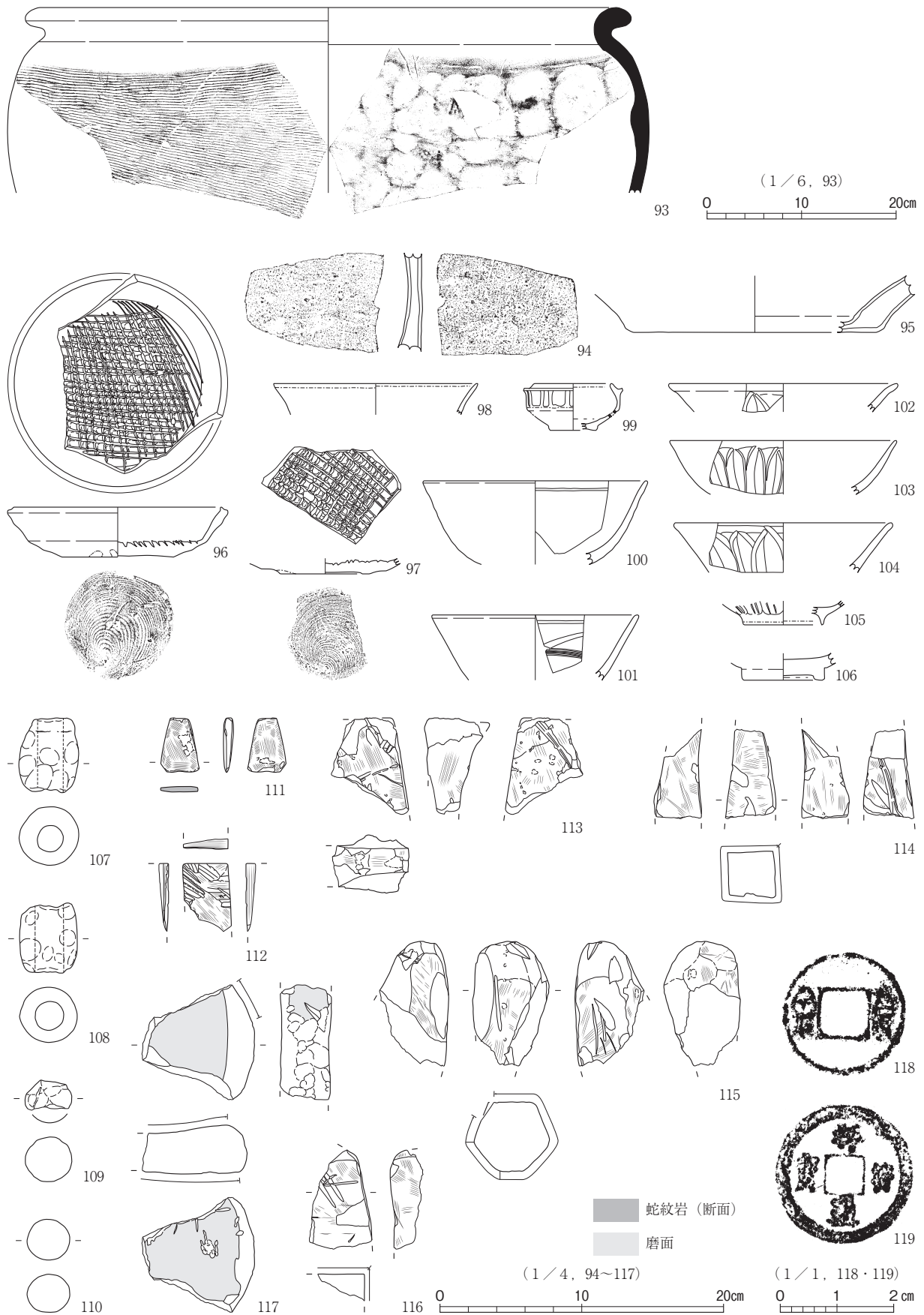
第36図 遺物実測図〔4〕 (1/4)

SE18 (67・71)、SK06 (79)、SK08 (68)、SD03 (65・66・69・70・73)、SD05 (68・81)、SD18 (78)  
 SD19 (64・76)、SD20 (69・75)、SD21 (64・74・82)、SD22 (80・83)、SD27 (77)、第I層 (72)



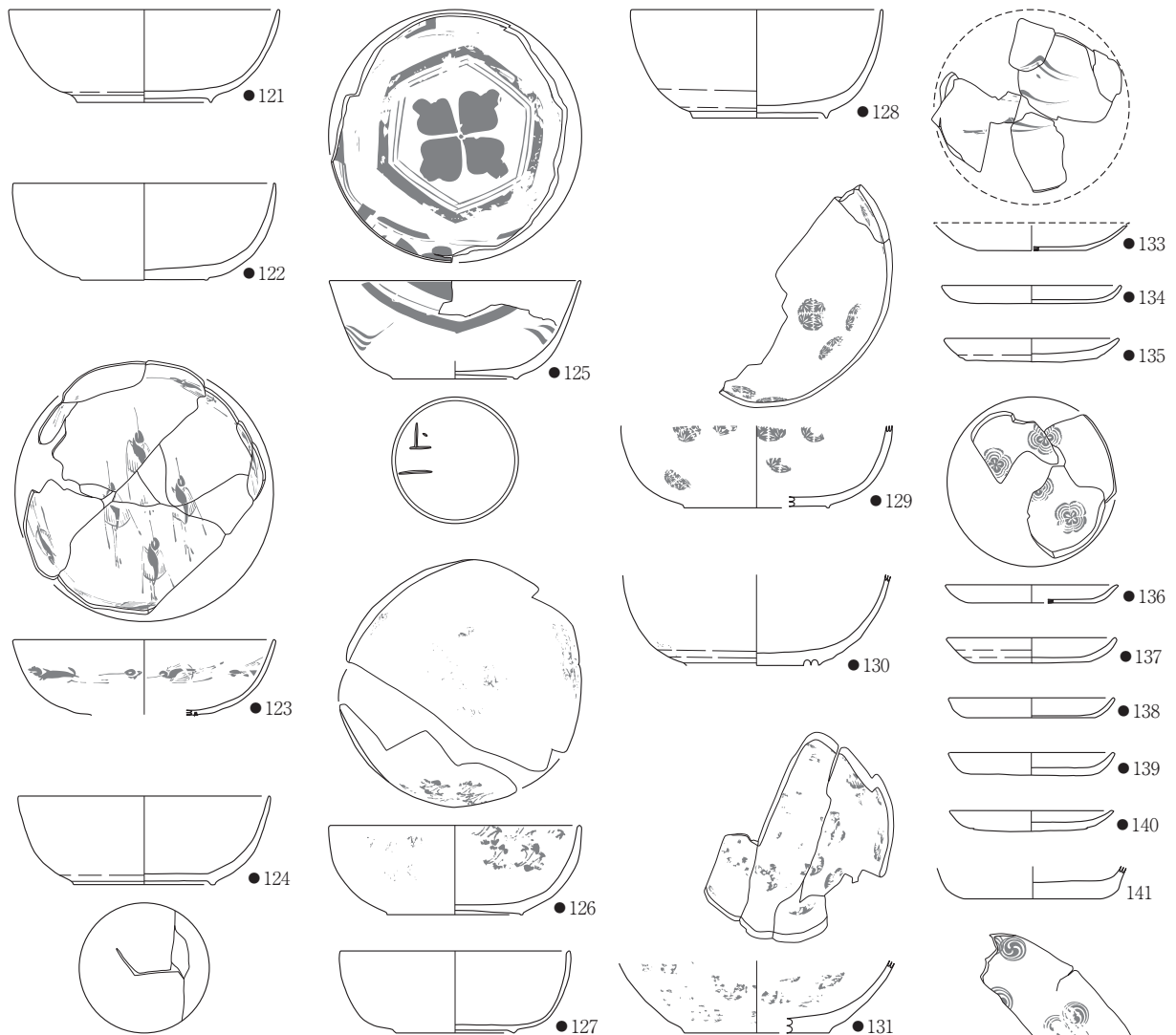
第37図 遺物実測図〔5〕 (1/4・1/6)

SD05 (85・89・90)、SD06 (92)、SD17 (87・91)、SD20 (91)、SD21 (87)、SD22 (85~87)  
SD23 (84・85・87)、NR01 (85・88)



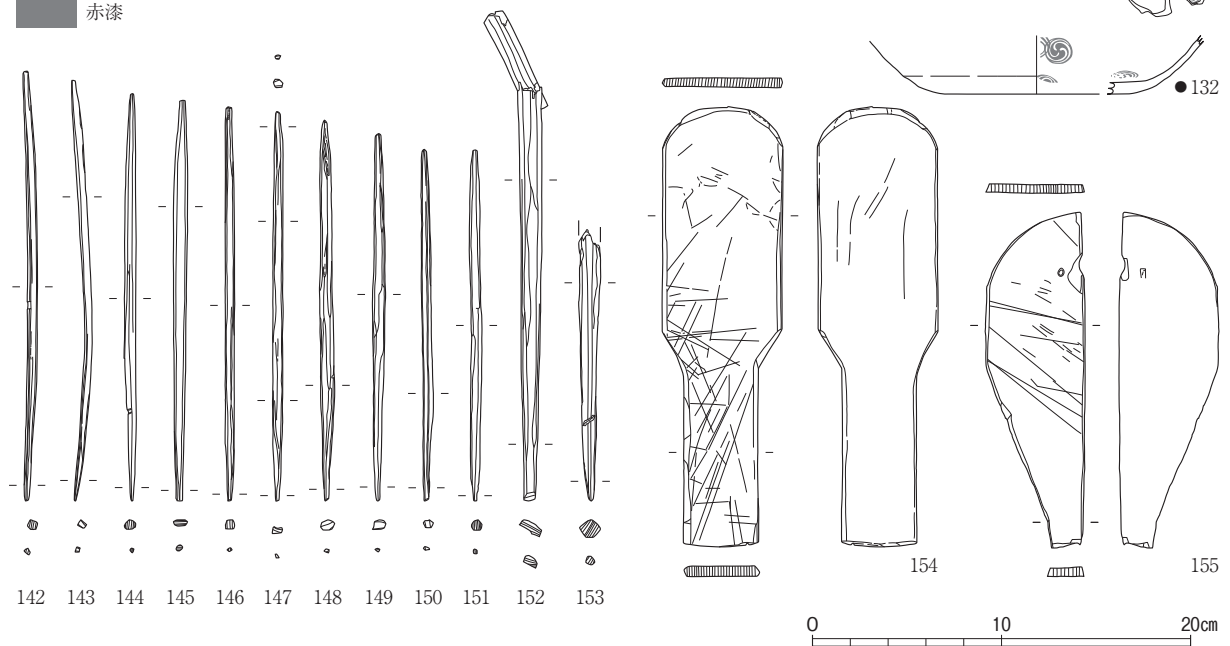
第38図 遺物実測図〔6〕 (1/1・1/4・1/6)

SE13 (100)、SK08 (96)、SD03 (93・99・103・114・116・117)、SD04 (110・113・118)、SD05 (104・106)  
SD13 (107・108)、SD17 (93・98・119)、SD20 (95・112)、SD21 (93・94・109)、SD23 (115)  
第I層 (101・105・111)、第II層上面 (97・102)



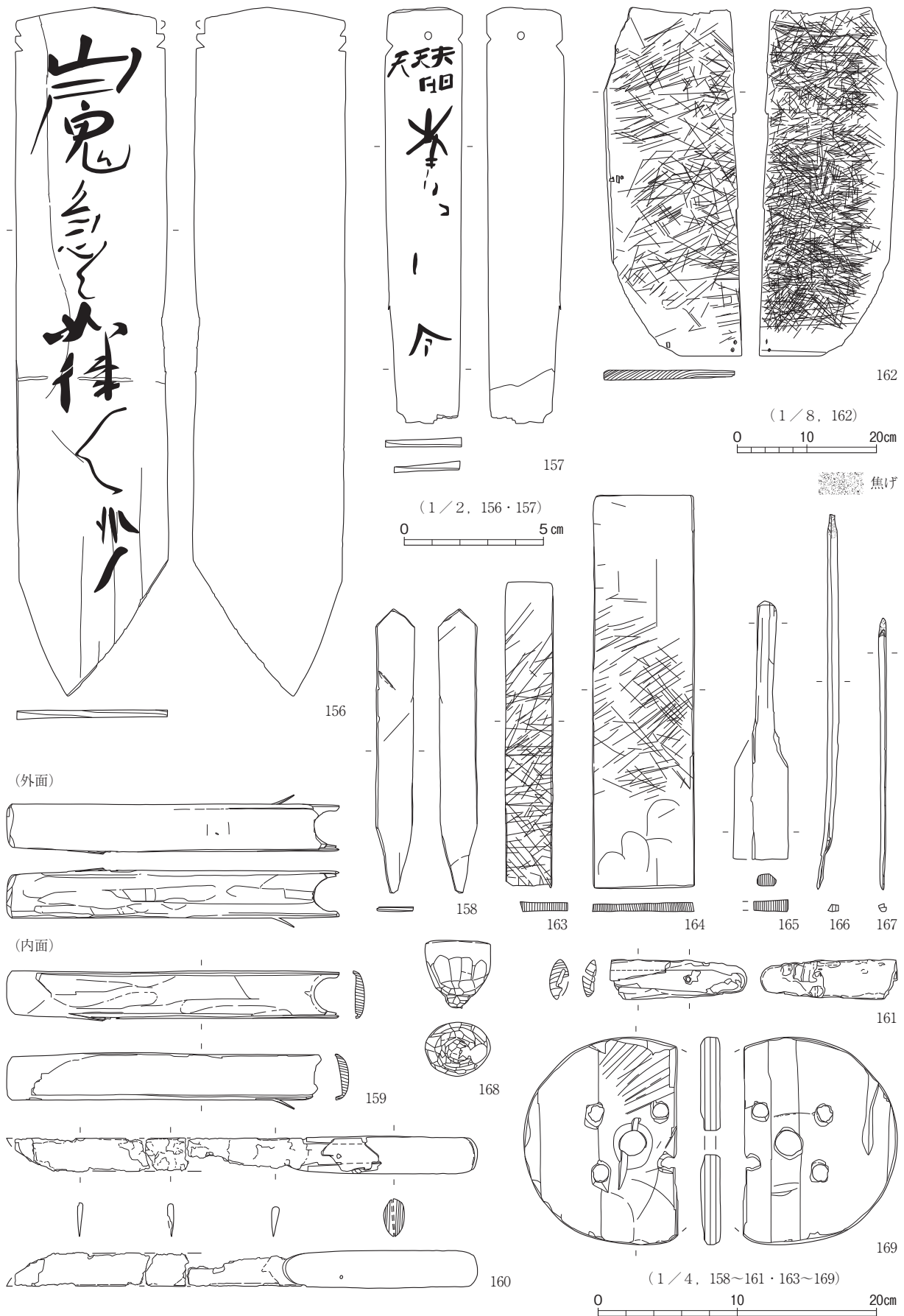
● 黒漆 (番号)

■ 赤漆



第39図 遺物実測図〔7〕 (1/4)

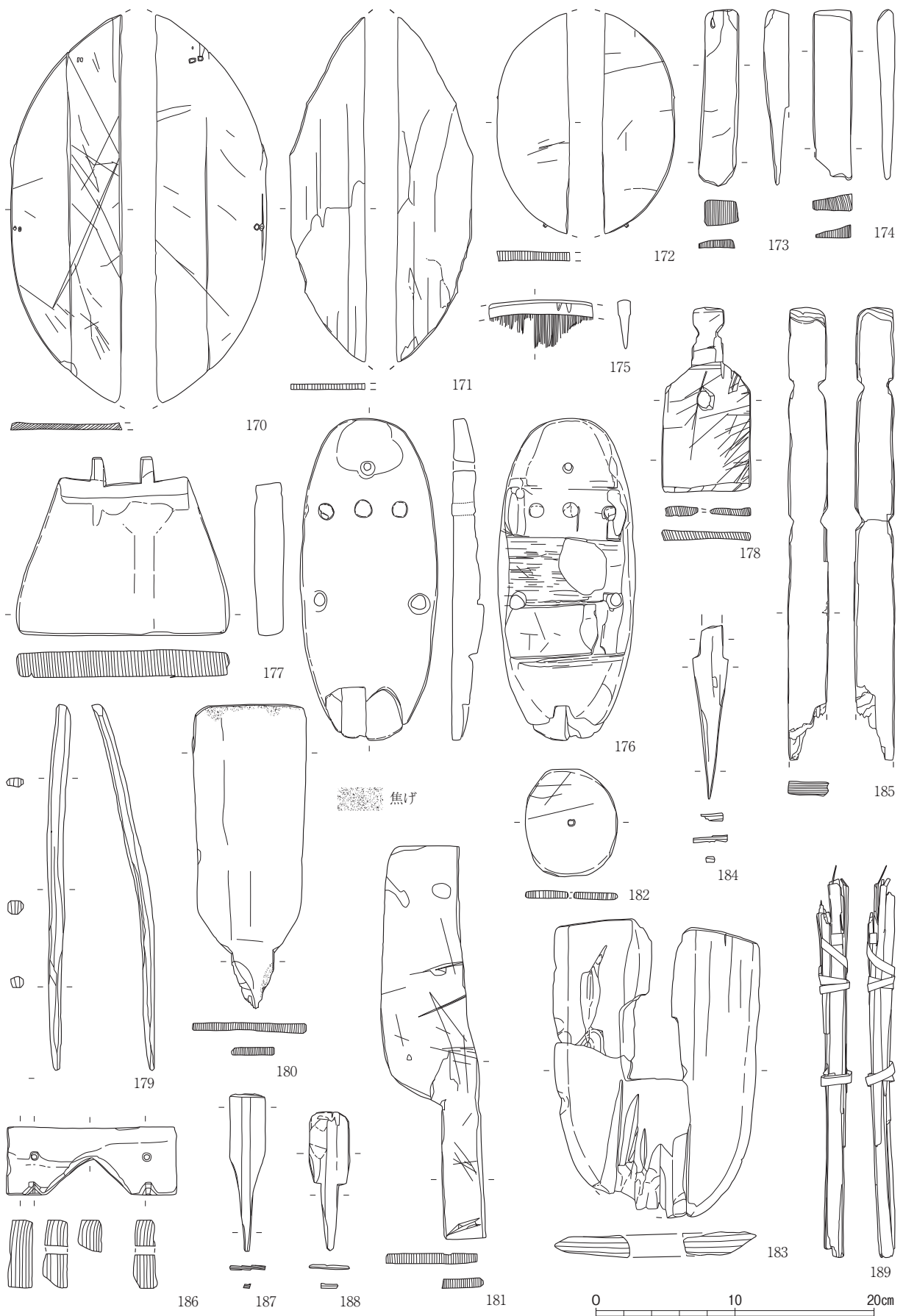
SE13 (121)、SE15 (128)、SK05 (134・135・137・142~152)、SD01 (141)、SD03 (133・138)  
 SD05 (123・130・155)、SD06 (127)、SD17 (122・140・153)、SD20 (129・139)、SD21 (124~126・132)  
 SD23 (154)、SD31 (131・136)



第40図 遺物実測図〔8〕 (1/2・1/4・1/8)

SE01 (166・167)、SE12 (162)、SK05 (157)、SD04 (159)、SD05 (163・164)、SD06 (169)  
 SD17 (159・160)、SD20 (156)、SD21 (158)、SD23 (161)、SD27 (165)、SD28 (168)





第41図 遺物実測図〔9〕 (1/4)

S D05 (170~174・178・179・186・189)、S D06 (183)、S D17 (182・184)、S D20 (175・185・188)  
 S D21 (176・180・187)、S D27 (181)、S D31 (177)